



トーカロ株式会社

2022 年 3 月期 第 2 四半期決算 会社説明会

2021 年 11 月 9 日

イベント概要

[企業名]	トーカロ株式会社		
[企業 ID]	3433		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2022 年 3 月期 第 2 四半期決算 会社説明会		
[決算期]	2021 年度 第 2 四半期		
[日程]	2021 年 11 月 9 日		
[ページ数]	64		
[時間]	13:30 – 14:25 (合計：55 分、登壇：33 分、質疑応答：22 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]	238 m ²		
[出席人数]	50 名		
[登壇者]	4 名		
	代表取締役 社長執行役員	三船	法行（以下、三船）
	取締役 常務執行役員 管理本部長、	後藤	浩志（以下、後藤）
	経理部長	細見	憲司（以下、細見）

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

経営企画室長

清水 浩 （以下、清水）

[アナリスト名]* いちよし経済研究所

大澤 充周

*質疑応答の中で発言をしたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



登壇

司会：お時間となりましたので、ただ今から、トーカロ株式会社様の決算説明会を開催いたします。

今回の説明会は会場での開催に加え、ライブ配信形式のオンラインとあわせたハイブリッド形式で開催させていただきます。

まず最初に、会社からお迎えしております 4 名の方をご紹介します。

代表取締役、社長執行役員、三船法行様です。

三船：どうぞよろしくお願いします。

司会：取締役、常務執行役員、管理本部長、後藤浩志様です。

後藤：よろしくお願いします。

司会：経理部長、細見憲司様です。

細見：細見です。よろしくお願いします。

司会：経営企画室長、清水浩様です。

清水：清水です。よろしくお願いします。

司会：本日は三船様からご説明いただくことになっております。

ご説明が終わりましたら、会場から質疑応答の時間といたします。続きまして、今回オンラインでご参加されている方からのご質問をお受けする予定です。

それでは三船様、よろしくお願いいたします。

三船：皆さん、こんにちは。トーカロ株式会社社長の三船でございます。

本日はご多用の中、トーカロ株式会社の会社説明会にご参加いただきまして誠にありがとうございます。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



今回は初の試みとして、先ほど、ご紹介ありましたけれども、従来のここ日経茅場町の別館からと、リアル開催に加えましてライブ中継を行っております。リアルライブというハイブリッドの形で行いますけれども、約 60 人の方が参加いただいているということをお聞きしております。

なにぶん初めてのことで、不手際もあるかと思いますが、よろしくお願い申し上げます。それでは早速始めたいと思います。

今日は、既に資料をお配りしているかと、またホームページでもアップしているかと思いますが、ご説明は第 1 部、第 2 四半期の決算ということと、それから第 2 部で今回初めて中期経営計画というのを作りましたので、それについてご説明したいと、その 2 本立てにさせていただきたいと思います。

ご説明は 40 分ほどかかるかなと思っていますが、通しで説明させていただいて、そのあと、皆様からのご質問をお受けしたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

第 2 四半期連結決算 実績概要



ハイライト



(1) 前年同期比 増収増益

上半期として売上・利益ともに過去最高

半導体分野の好調継続

それ以外の分野も概ね期初予想を上回る水準で推移



(2) 子会社も国内・海外ともに増収増益

国内の自動車分野は堅調に推移

中国・台湾の半導体・FPD 分野が好調

中国の石油分野は受注回復せず

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

5

それでは、まず第 2 四半期決算についてご説明申し上げます。第 2 四半期連結決算の概要と、それから 2022 年 3 月期、今期ですね、連結業績予想についてご説明申し上げます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



まず、資料の 5 ページになりますが、第 2 四半期決算のハイライトとして、1 番目は前年同期比増収増益となりました。

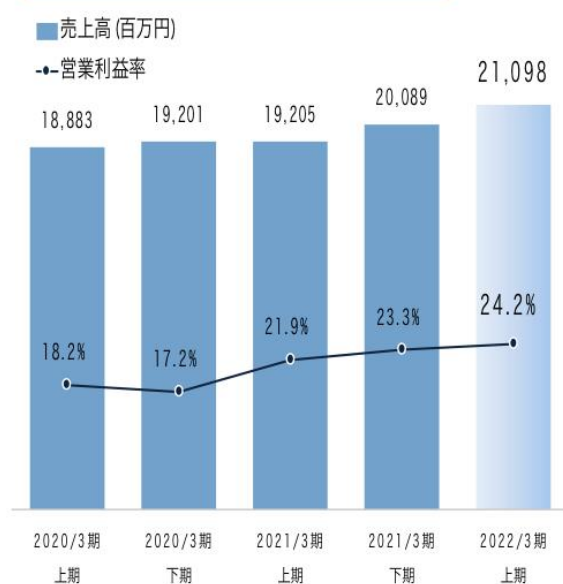
上半期として売上・利益ともに過去最高の結果となりました。半導体分野の好調が継続しておりまして、それ以外の分野も、おおむね期初予想を上回る水準を推移できたかなと考えております。

それから 2 番目に、子会社、国内・国外とも増収増益になっておりまして、国内子会社は特に自動車関係が今、いろいろ問題はありますが、回復基調ということで堅調に推移していると。海外子会社につきましては、中国・台湾の半導体・FPD の関連が好調で、ただ、一方、石油ガスの関係で、受注の回復がちょっと遅れているってことはありますが、全体的には、それなりにいい成績を収めているというところです。

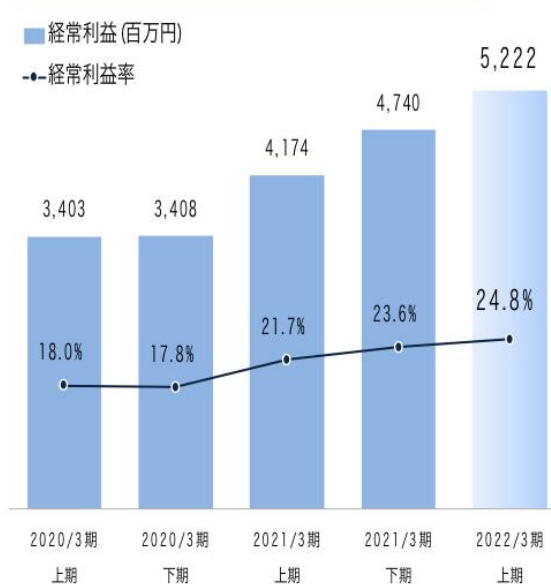
第 2 四半期連結決算 実績概要



売上高と営業利益率



経常利益と経常利益率



(注) 2022/3 期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しており、過年度もこの変更を反映した組替え後の数値を記載しています。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

6

この 6 ページにつきましては、上期実績を過去 4 半期と比較したグラフになります。

左が売上高と営業利益率、右が経常利益と経常利益率になります。今期の上期は売上 210 億 9,800 万円。営業利益率が 24.2%でした。経常利益は、いちばん右ですけども 52 億 2,200 万円。経常利益率は 24.8%となりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



第2四半期連結決算 実績概要



(百万円)	2021/3期 実績	2Q 構成比	2022/3期 実績	2Q 構成比	前年同期比増減 金額	率
売上高	19,205	100.0%	21,098	100.0%	1,893	9.9%
溶射加工(単体)	14,965	77.9%	16,000	75.8%	1,034	6.9%
半導体・FPD	9,019	47.0%	9,938	47.1%	919	10.2%
産業機械	2,075	10.8%	1,757	8.3%	△317	-15.3%
鉄鋼	1,739	9.1%	1,623	7.7%	△115	-6.6%
その他	2,131	11.0%	2,680	12.7%	548	25.8%
その他表面処理加工	1,029	5.4%	1,195	5.7%	166	16.1%
国内子会社	892	4.6%	1,206	5.7%	313	35.1%
海外子会社	2,205	11.5%	2,615	12.4%	409	18.6%
受取ロイヤリティー等	111	0.6%	80	0.4%	△30	-27.5%
営業利益	4,203	21.9%	5,111	24.2%	908	21.6%
経常利益	4,174	21.7%	5,222	24.8%	1,048	25.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,688	14.0%	3,448	16.3%	760	28.3%

(注) 2022/3期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しており、2021/3期もこの変更を反映した組替え後の数値を記載しています。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

7

7 ページはセグメント別の売上になります。今期 2022 年上期、連結売上は 210 億、前年同期比で 9.9%の増収となっております。

うち半導体が好調で、これが 10.2%増の 99 億円というところまでできておりまして、これが牽引したと。

それから、産業機械ですとか鉄鋼は前年比で少しマイナスとなりましたが、他はプラスとなっております。国内子会社は、自動車の関係が復調したということもありまして、35.1%増の 12 億円となっています。海外子会社が 18.6%増の 26 億円ということもかなり寄与しているなということです。

営業利益は 21.6%増の 51 億円。それから経常利益は 25.1%増の 52 億円。親会社株主に帰属する四半期純利益は 34 億円、28.3%増になりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント情報

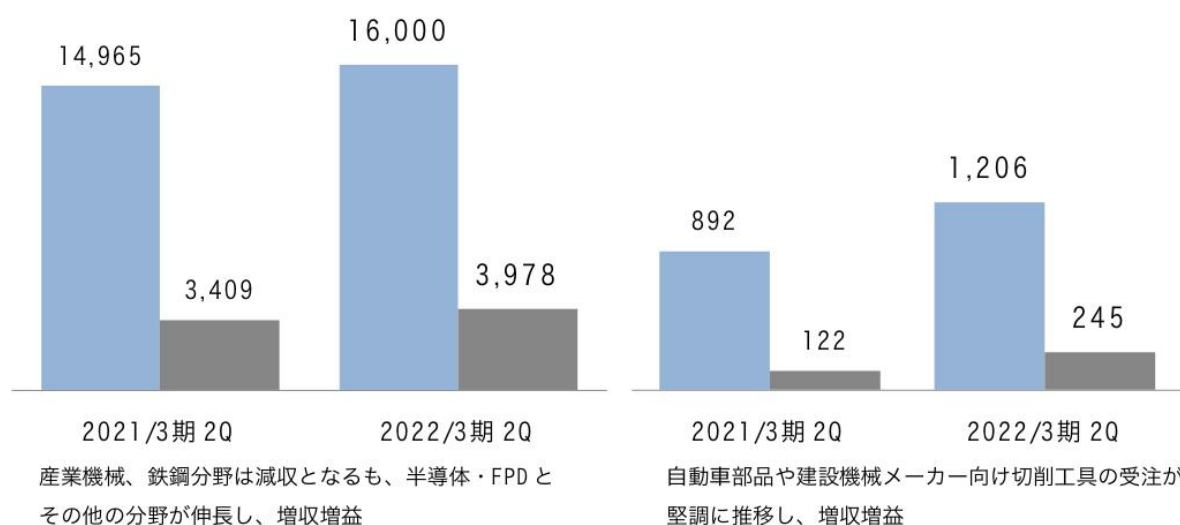


溶射加工 (単体)

国内子会社

■ 売上高 (百万円)

■ セグメント利益 (百万円)



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

8

それから 8 ページ。このページはセグメントごとの売上、それから経常利益を前年同期と比較したものです。

各セグメントについて、下に簡単なコメントはつけておりますが、各セグメント、四つのセグメントありますが、どれも増収増益という形になっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

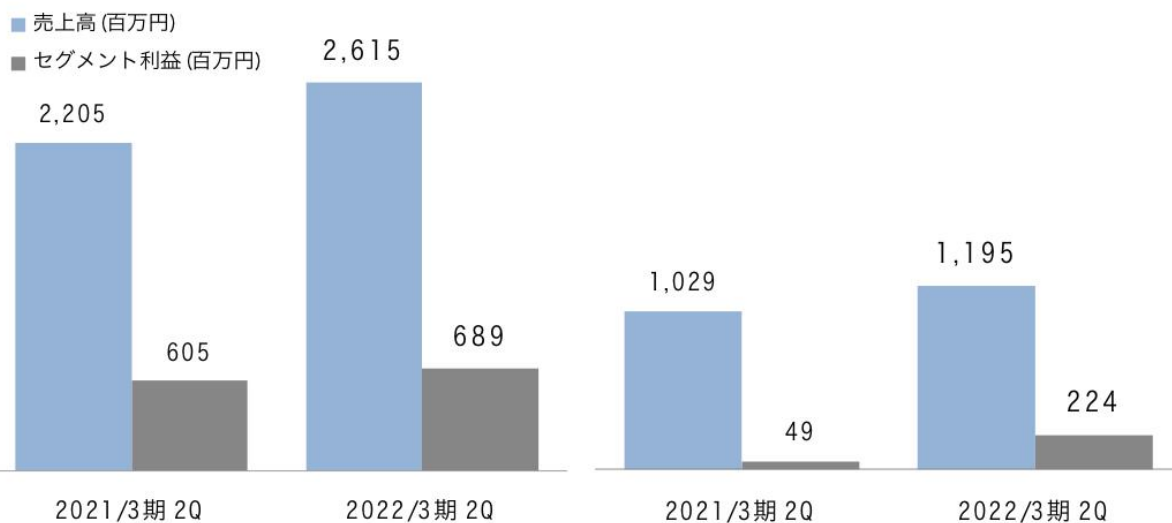


セグメント情報



海外子会社

その他表面処理加工



中国での石油分野の受注が低調に推移したものの、半導体・FPD関連が概ね好調で、増収増益

総じて受注が回復傾向にあり、増収増益

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

9

海外子会社、その他表面処理加工も、売上、経常利益、前年同期と比較したもので、増収増益になっています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



セグメント情報



(百万円)	2021/3期 2Q		2022/3期 2Q		前年同期比増減			
					売上高		セグメント利益	
	売上高	セグメント利益	売上高	セグメント利益	金額	率	金額	率
溶射加工(単体)	14,965	3,409	16,000	3,978	1,034	6.9%	568	16.7%
国内子会社	892	122	1,206	245	313	35.1%	122	100.1%
海外子会社	2,205	605	2,615	689	409	18.6%	84	14.0%
その他表面処理加工	1,029	49	1,195	224	166	16.1%	175	350.3%
合計	19,093	4,187	21,017	5,138	1,924	10.1%	951	22.7%

(注) 売上高のうち「受取ロイヤリティー等」は含まれておりません。また、セグメント利益は、連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

10

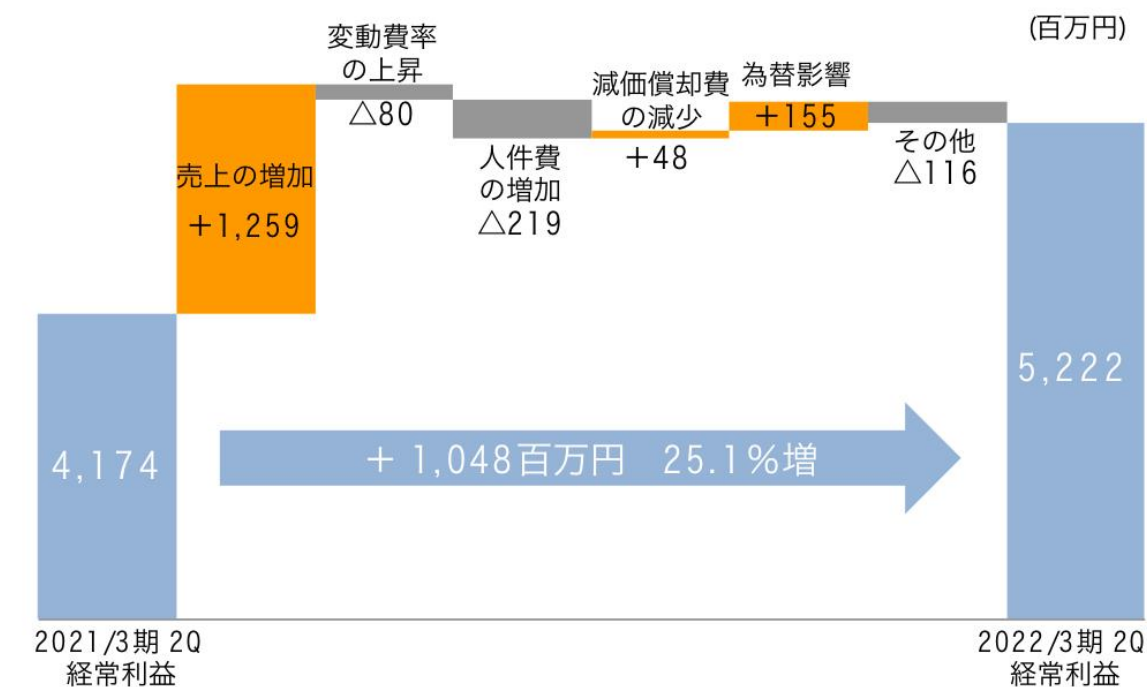
それから、この 10 ページは、今グラフで説明したセグメントごとの売上利益を前年同期比で表にまとめたものですので、説明は割愛させていただきます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



前年同期比 経常利益 増減要因分析



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

11

11 ページは、経常利益の前年同期比、増減分析になります。

今期、上期につきましては経常利益が 52 億 2,200 万円と、前年同期比で 10 億 4,800 万円増加しましたが、その主な要因は、12 億 5,900 万円の売上増加によるものです。

あとは、円安の進行がかなり進みましたものですから、為替影響が 1 億 5,500 万円ほど出ておりまして、これが特筆すべきことかなと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



財政状態



(百万円)	2021/3期		2022/3期
	2 Q末	4 Q末	2 Q末
総資産	61,817	64,183	66,430
自己資本	42,140	44,201	46,633
自己資本比率	68.2%	68.9%	70.2%
有利子負債残高	7,057	6,031	5,073

- ・ 総資産は前期末比 22億47百万円の増加（有形固定資産の増加 15億09百万円）
- ・ 自己資本比率は前期比末 1.3ポイント上昇の70.2%
- ・ 有利子負債は前期末比 9億57百万円の減少（新規借入なし）

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

12

12 ページは財政状態です。

中間期末の総資産は 664 億円、自己資本は 466 億円です。自己資本比率は 70.2%と、健全な状態を維持していると考えております。有利子負債については、前期末比、10 億円減少して 50 億円となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



キャッシュ・フローの状況



(百万円)	2021/3期 2 Q	2022/3期 2 Q
営業キャッシュ・フロー	4,180	4,706
投資キャッシュ・フロー	△ 1,932	△ 1,820
財務キャッシュ・フロー	△ 2,002	△ 2,494
現金及び現金同等物の期末残高	16,714	19,174

- ・当期のフリーキャッシュ・フロー（営業C F + 投資C F）は+28億円
- ・投資C F / 有形固定資産の取得 前期：△18億円 当期：△18億円
- ・財務C F / 配当金の支払額 前期：△ 7億円 当期：△13億円

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

13

それから 13 ページはキャッシュフローの状況です。

今期上期、営業キャッシュフローが 47 億円、投資キャッシュフローはマイナスの 18 億円、この二つを合わせたフリーキャッシュフローはプラス 28 億円と健全な状態を示してるかなと。財務キャッシュフローにつきましては、配当実施と借入の返済でマイナス 24 億円。結果、今期上期末の現金残は 191 億円となっております。

サポート

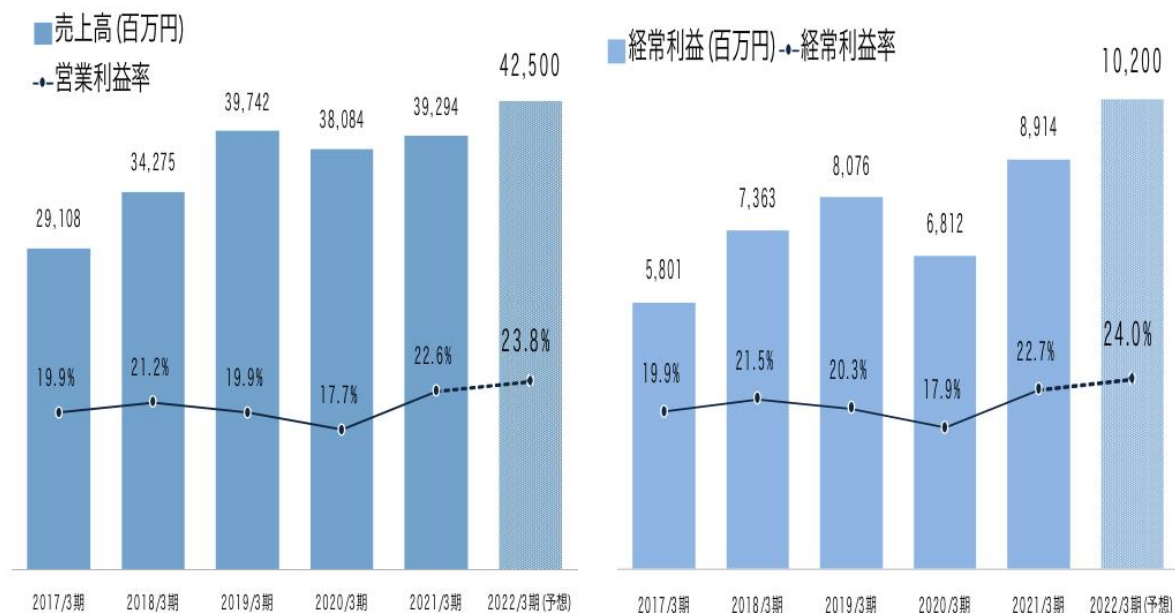
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2022年3月期 連結業績予想の概要



売上高は半導体関連を中心に期初予想を上回る水準での推移が見込まれるため、通期の業績予想を修正



(注) 2022/3期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しており、過年度もこの変更を反映した組替え後の数値を記載しています。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

15

次に、今年度の連結業績予想についてご説明いたします。先月末に上方修正しております。

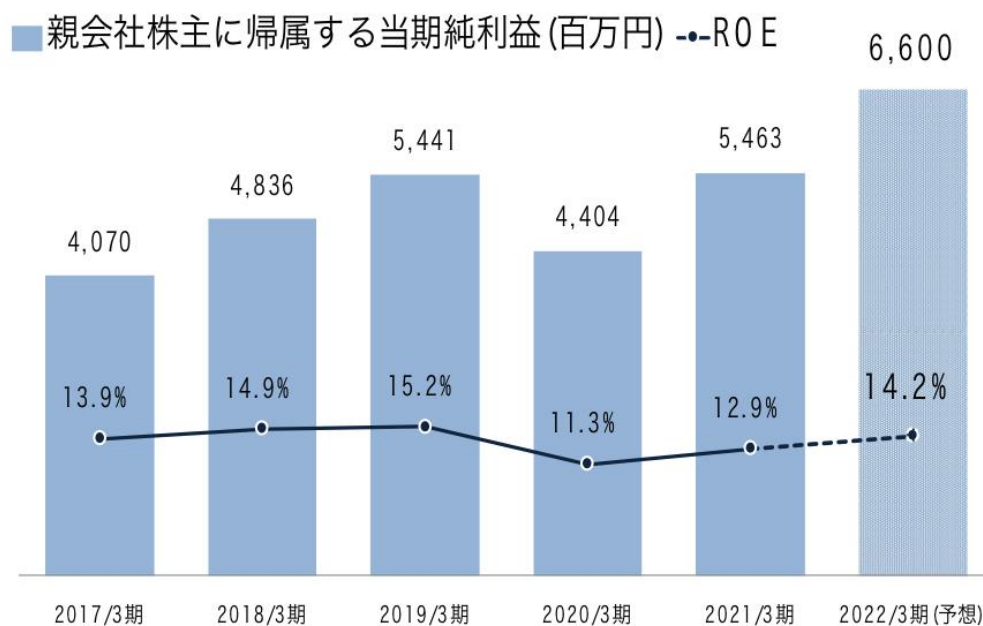
この15ページのグラフに示しますように、今年度の連結売上を425億円、経常利益を102億円、経常利益率を24.0%に上方修正しております。売上、利益ともに過去最高の着地予想となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2022年3月期 連結業績予想の概要



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

16

この16ページは、親会社株主に帰属する当期純利益、ならびにROEの予想です。

純利益は66億円、これも過去最高の予想です。ROEにつきましては、今のところ14.2%に上昇する見込みにしております。残念ながら、目標とするところの15%にはちょっと足りないかなというところがございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2022年3月期 連結業績予想 修正の概要

(百万円)	2022/3期				5月発表予想比増減	
	5月発表予想	構成比	今回修正予想	構成比	金額	率
売上高	41,000	100.0%	42,500	100.0%	1,500	3.7%
溶射加工(単体)	31,045	75.7%	31,830	74.9%	785	2.5%
半導体・FPD	19,462	47.5%	20,000	47.1%	538	2.8%
産業機械	3,895	9.5%	3,780	8.9%	△115	-3.0%
鉄鋼	3,105	7.6%	3,280	7.7%	175	5.6%
その他	4,583	11.1%	4,770	11.2%	187	4.1%
その他表面処理加工	2,247	5.6%	2,460	5.7%	213	9.5%
国内子会社	2,396	5.8%	2,450	5.8%	54	2.3%
海外子会社	5,182	12.6%	5,600	13.2%	418	8.1%
受取ロイヤリティー等	130	0.3%	160	0.4%	30	23.1%
営業利益	9,000	22.0%	10,100	23.8%	1,100	12.2%
経常利益	9,000	22.0%	10,200	24.0%	1,200	13.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,800	14.1%	6,600	15.5%	800	13.8%

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

17

この17ページは、期初発表予想と、今回修正、10月末に修正しました差異の概要でございます。

連結売上を15億円上方修正しています。そのうち、半導体で5億円。鉄鋼、その他、海外子会社などで2億から4億円上方修正しています。

ただ産業機械については、上期振るわなかったものですから、下期、頑張っても1億円の下方修正としました。

利益は営業利益で11億円、経常利益で12億円、当期純利益で8億円の上方修正となっております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2022年3月期 連結業績予想



(百万円)	2021/3期		2022/3期		前期実績比増減	
	実績	構成比	修正予想	構成比	金額	率
売上高	39,294	100.0%	42,500	100.0%	3,205	8.2%
溶射加工 (単体)	30,141	76.7%	31,830	74.9%	1,688	5.6%
半導体・FPD	18,176	46.3%	20,000	47.1%	1,823	10.0%
産業機械	3,965	10.1%	3,780	8.9%	△185	-4.7%
鉄鋼	3,166	8.1%	3,280	7.7%	113	3.6%
その他	4,832	12.2%	4,770	11.2%	△62	-1.3%
その他表面処理加工	2,112	5.4%	2,460	5.7%	347	16.4%
国内子会社	2,018	5.1%	2,450	5.8%	431	21.4%
海外子会社	4,800	12.2%	5,600	13.2%	799	16.6%
受取ロイヤリティー等	221	0.6%	160	0.4%	△61	-27.7%
営業利益	8,890	22.6%	10,100	23.8%	1,209	13.6%
経常利益	8,914	22.7%	10,200	24.0%	1,285	14.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,463	13.9%	6,600	15.5%	1,136	20.8%

(注) 2022/3期より「受取ロイヤリティー等」の計上区分を営業外収益から売上高に変更しており、2021/3期もこの変更を反映した組替え後の数値を記載しています。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

18

18 ページにつきましては、今回修正後の計画と前年実績との比較です。

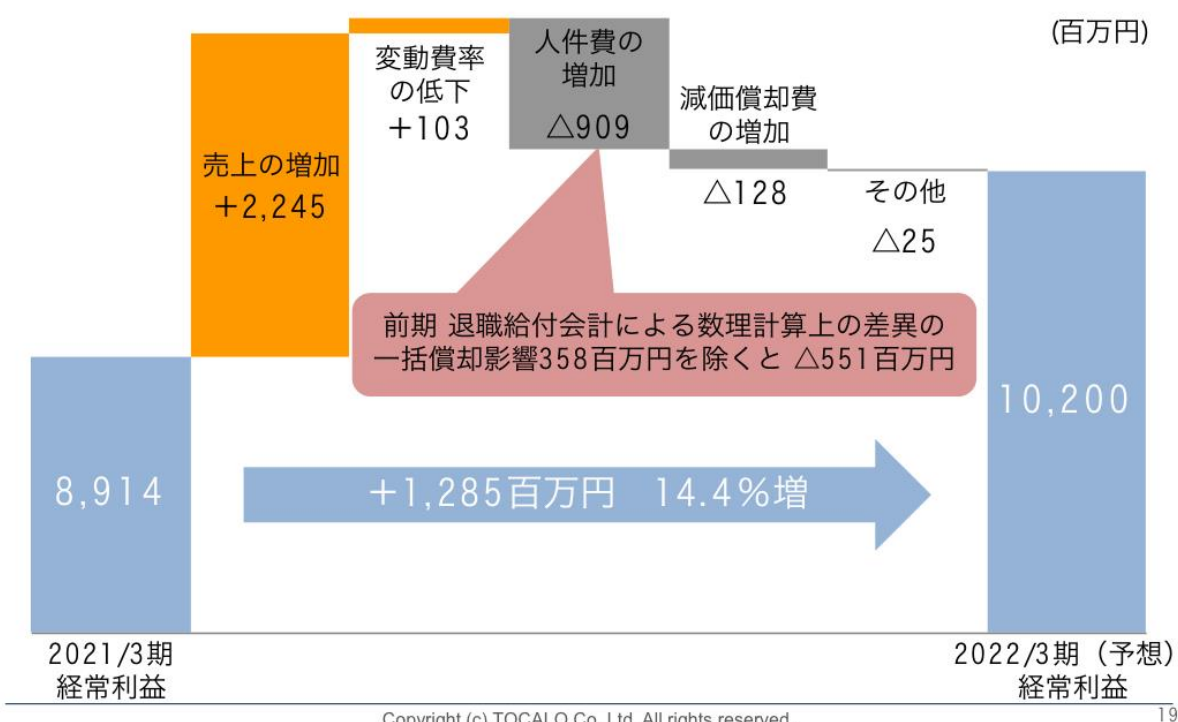
連結売上は 32 億円、8.2%の増収となりますが、うち半導体で 18 億円、10%の増収。その他表面処理、および子会社が増収に寄与しております。経常利益が 14.4%、12 億 8,000 万円のアップで 102 億円、利益率 24%でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



連結業績予想 経常利益 増減要因分析



19 ページ、修正した経常利益予想は 102 億円になっているのですが、前年度実績からの増減要因分析になります。主な要因は売上増加によるもので、これが 22 億円の寄与。

費用増加として、人件費の増加が 9 億円ということで示されていますが、このうち昨年度に退職給付会計関連という形で、私ども毎年、この退職給付会計による数理計算上の差異については処理をしておりますですね。昨年度末は株価が高かったこともありまして、3 億 5,800 万円のプラスが出ていまして、それを除くと実質 5 億 5,000 万円の今回の人件費の増加になるかと考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



2022年3月期 第2四半期 進捗率



(百万円)	2022/3期 実績	2 Q 構成比	2022/3期 修正予想	通期 構成比	2 Q実績 進捗率
売上高	21,098	100.0%	42,500	100.0%	49.6%
溶射加工 (単体)	16,000	75.8%	31,830	74.9%	50.3%
半導体・F P D	9,938	47.1%	20,000	47.1%	49.7%
産業機械	1,757	8.3%	3,780	8.9%	46.5%
鉄鋼	1,623	7.7%	3,280	7.7%	49.5%
その他	2,680	12.7%	4,770	11.2%	56.2%
その他表面処理加工	1,195	5.7%	2,460	5.7%	48.6%
国内子会社	1,206	5.7%	2,450	5.8%	49.2%
海外子会社	2,615	12.4%	5,600	13.2%	46.7%
受取ロイヤリティ等	80	0.4%	160	0.4%	50.5%
営業利益	5,111	24.2%	10,100	23.8%	50.6%
経常利益	5,222	24.8%	10,200	24.0%	51.2%
親会社株主に帰属する 当期 (四半期) 純利益	3,448	16.3%	6,600	15.5%	52.3%

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

20

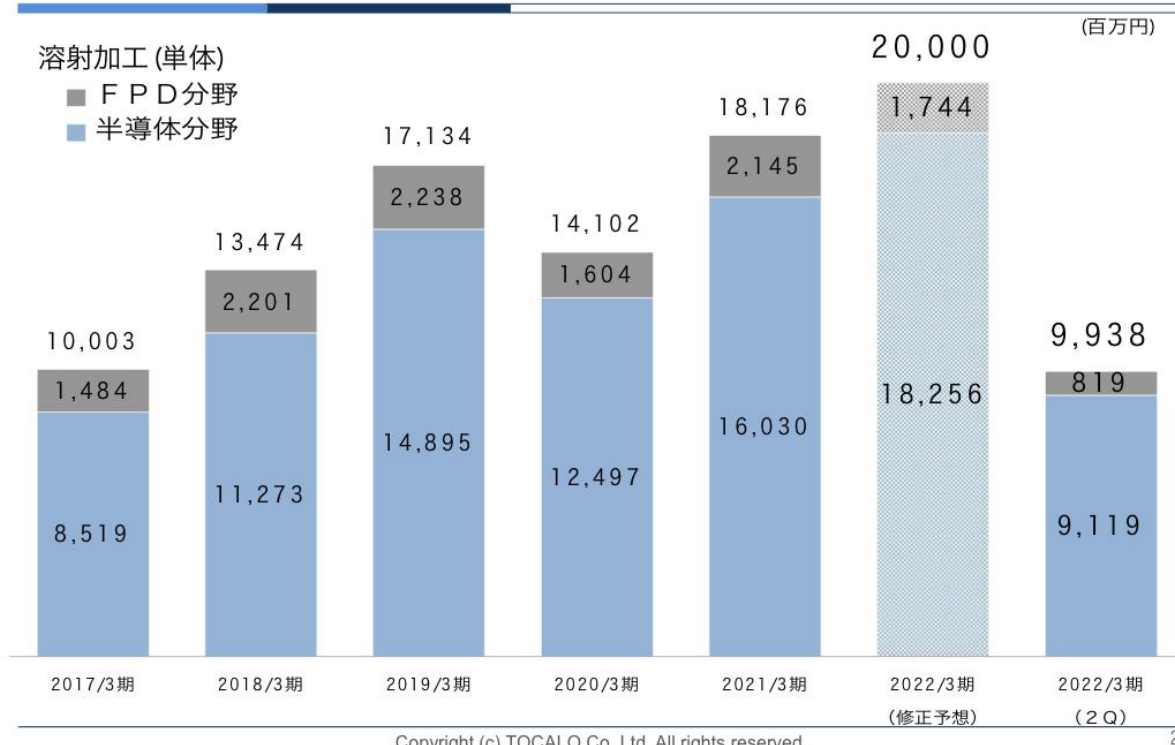
20 ページは修正予想に対する上期実績の進捗率を示したもので、これは修正して、だいたい 50% ぐらいに合わせてきていますので、そういう数字になっておりますよというところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



半導体・FPD分野の売上推移



21

21 ページは、過去 5 年間の半導体・FPD 分野の売上推移でございます。

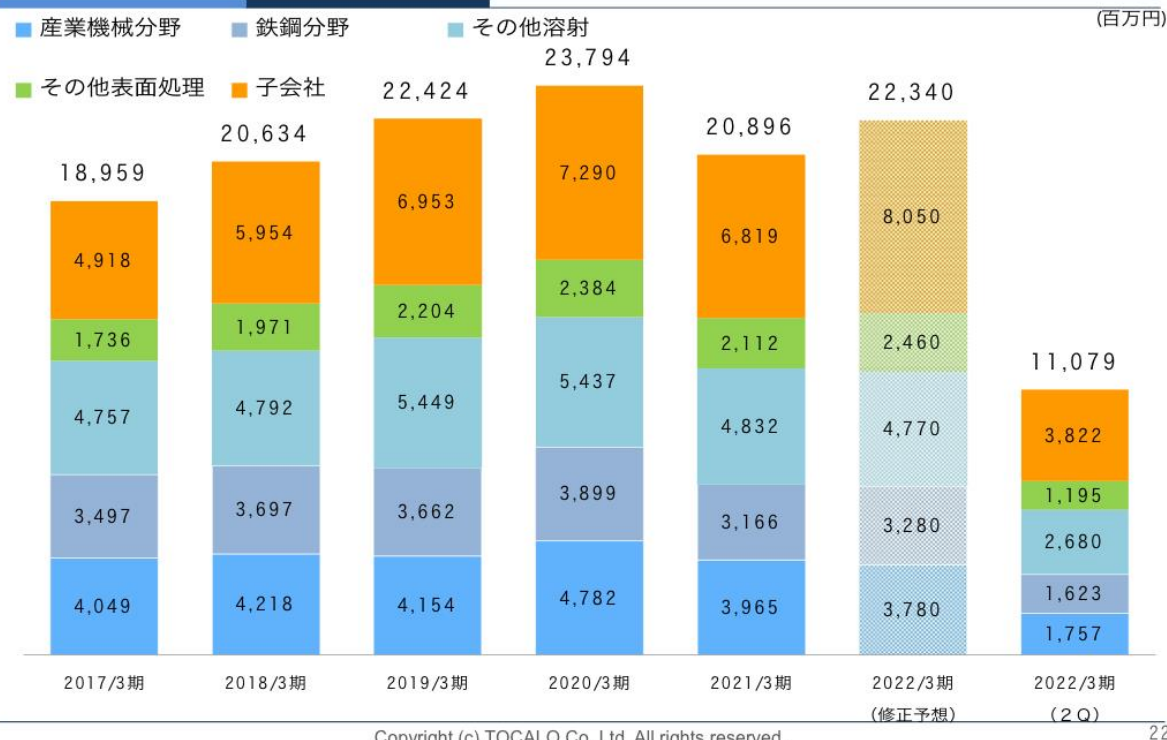
今期上期の実績は、いちばん右の 99 億円。うち半導体が 91 億円で FPD が 8 億円の売上でございます。今年度修正した売上予想は 200 億円、大台の 200 億円に乗りまして、うち半導体が 182 億円、FPD が 17 億円としております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



半導体・FPD分野以外の売上推移



続いて半導体・FPD 以外の売上推移です。

今年度の予想は 223 億円と、前年 208 億円から回復しているのですが、まだその前の年、2020 年 3 月期、ここは 237 億円の売上を上げておりましたので、そこまでは届いてないかなと。

去年よりは回復したのですがけれども、絶好調の一番いいときに比べると、そこまでまだ回復してないかな。特に産機、鉄鋼の関係が、まだ回復の余地があるかなと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

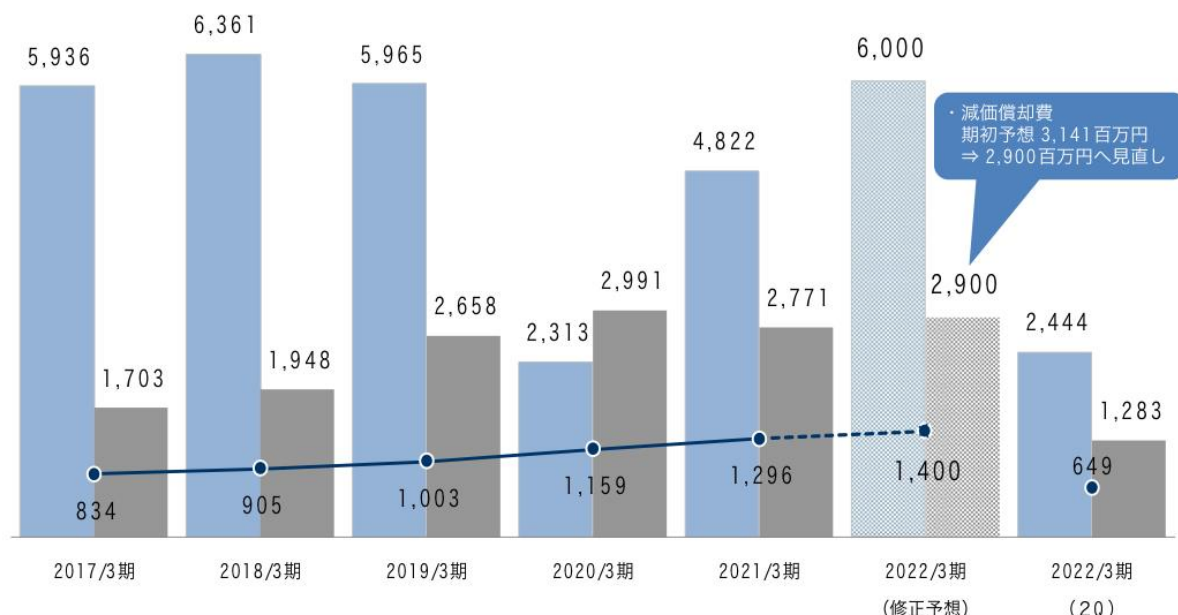


設備投資額・減価償却費・研究開発費



■ 設備投資額 ■ 減価償却費 ●-●- 研究開発費

(百万円)



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

23

それから 23 ページ、このページは設備投資額、それから減価償却費、研究開発費の推移でございます。

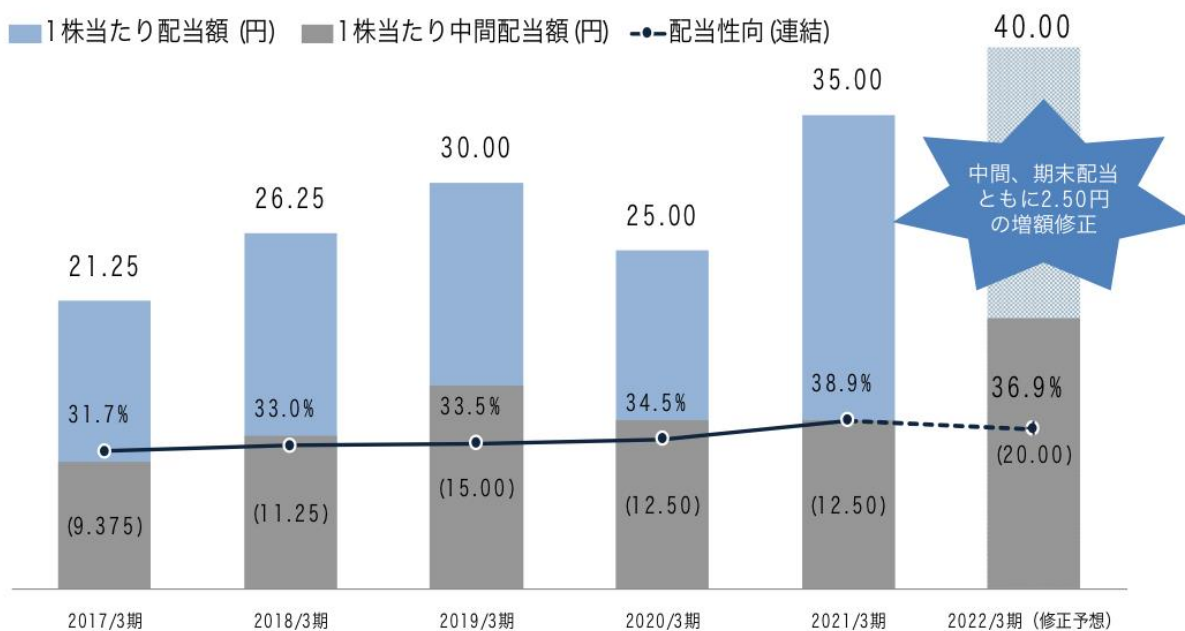
上半期実績は、いちばん右で設備投資が 24 億円、減価償却は 12 億円、研究開発 6 億円でございます。これを受けまして、今年度見込みは、設備投資につきましては 60 億円、研究開発 14 億円と、期初予想を据え置いておりますけれども、減価償却については、進みがちょっと遅れている関係もございまして 29 億円と若干見直しております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



1株当たり配当額・配当性向の推移



(注) 2017/3期の1株当たり配当額は、株式分割を考慮した数値に換算しております。

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved.

24

それからこの24ページにつきましては、配当、配当性向についてです。

上半期の実績を受けまして、今年度配当を40円に増額修正しております。中間で20円、期末で20円になります。配当性向はこのままでいきますと、36.9%の見込みです。

サポート

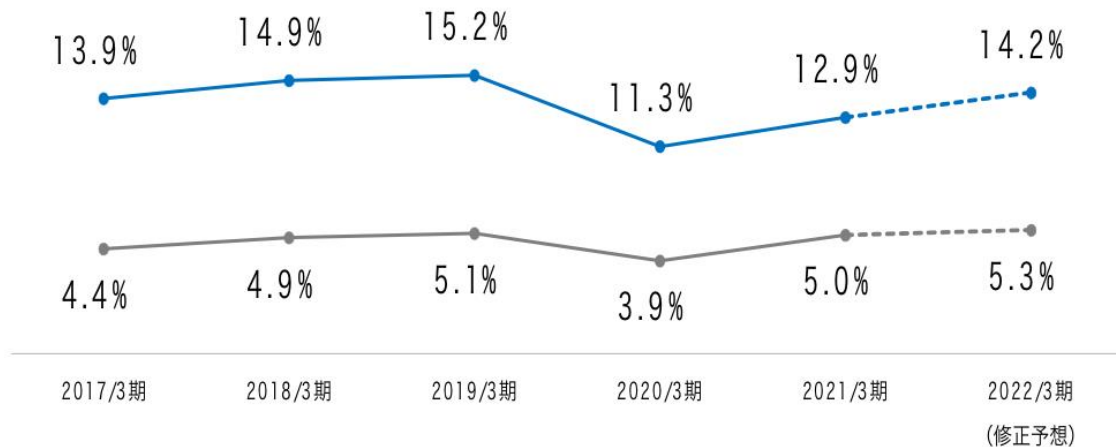
日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ROE・純資産配当率の推移



● ROE ● 純資産配当率



ROE (自己資本利益率) = 当期純利益 / 期中平均自己資本

純資産配当率 = 1株当たり配当金 / 期中平均1株当たり純資産 (= ROE × 配当性向)

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved.

25

25 ページは ROE と純資産配当率の推移になります。

修正予想のベースで、今年度は ROE が先ほどもご説明しましたけど 14.2%、純資産配当率が 5.3% 程度となる予定にしております。

(26 ページの表が欠落?)

最後にこのページに今までの経営指標ハイライトを掲載しております。ご参考にしていただければ幸いです。

以上が第 2 四半期決算についてのご説明となります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



人と自然の豊かな未来に貢献する



溶射を中心とした各種表面改質の総合メーカー

中期経営計画

22/3期(71期)～26/3期(75期)

2021年11月

トーカロ株式会社
代表取締役社長執行役員
三船 法行

(東証1部 3433)

続いて、中期経営計画についてご説明申し上げたいと思います。

今般、当社 70 周年を迎えたのですけれども、70 年の歴史の中で初めて中期経営計画なるものを、皆さんからのご要望も多かったのですが、策定いたしまして、对外発表させていただく機会となりました。

今期、22 年 3 月期から 2026 年 3 月期までの 5 カ年計画としております。表紙の上部に、「人と自然の豊かな未来に貢献する」ということをうたっていますが、これが後ほどご説明する当社グループのビジョンといいますか、2030 年に目指す姿になります。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



目次

1. 現状認識（当社の事業環境）
2. 中期経営計画の概要
3. 施策と数値目標



TOCALO

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved. 2

2 ページは、本計画の目次になります。1 は現状認識、当社の事業環境、それから中期計画の概要、施策と数値目標という 3 部構成としております。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



目次

1. 現状認識（当社の事業環境）

2. 中期経営計画の概要

3. 施策と数値目標



TOCALO

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved. 3

この3ページは、まずは現状認識ということで当社の事業環境のご説明になります。

このパートにつきましては、4ページから17ページまで、14ページあるのですが、従来から決算発表など、いろいろなところでご説明しております内容と重なりますので、今日は時間の関係もございまして、ざっとページを眺めるだけにさせていただきたいと思います。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



会社概要

トーカロ株式会社

事業内容：溶射を中心とした表面改質加工

本 社：兵庫県神戸市

設 立：1951年7月

資本金：26億5,882万3千円

売上高：連結 390億73百万円（2021年3月期）

従業員数：連結 1,121名（2021年3月末現在）



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 4

4 ページ、会社概要でございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



当社の主な事業所

※JCC = 日本コーティングセンター

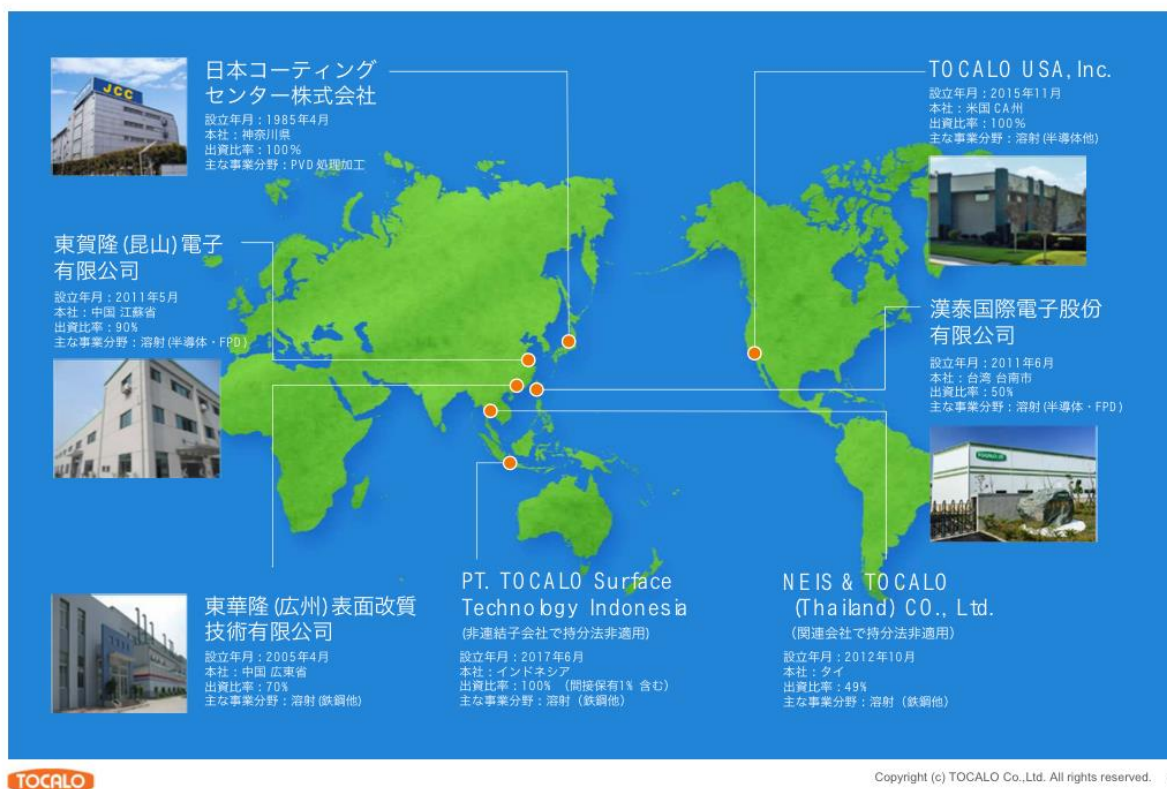


5 ページに当社の主な事業所を並べております。水島新工場が今月新しく竣工する予定です。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

グループ会社

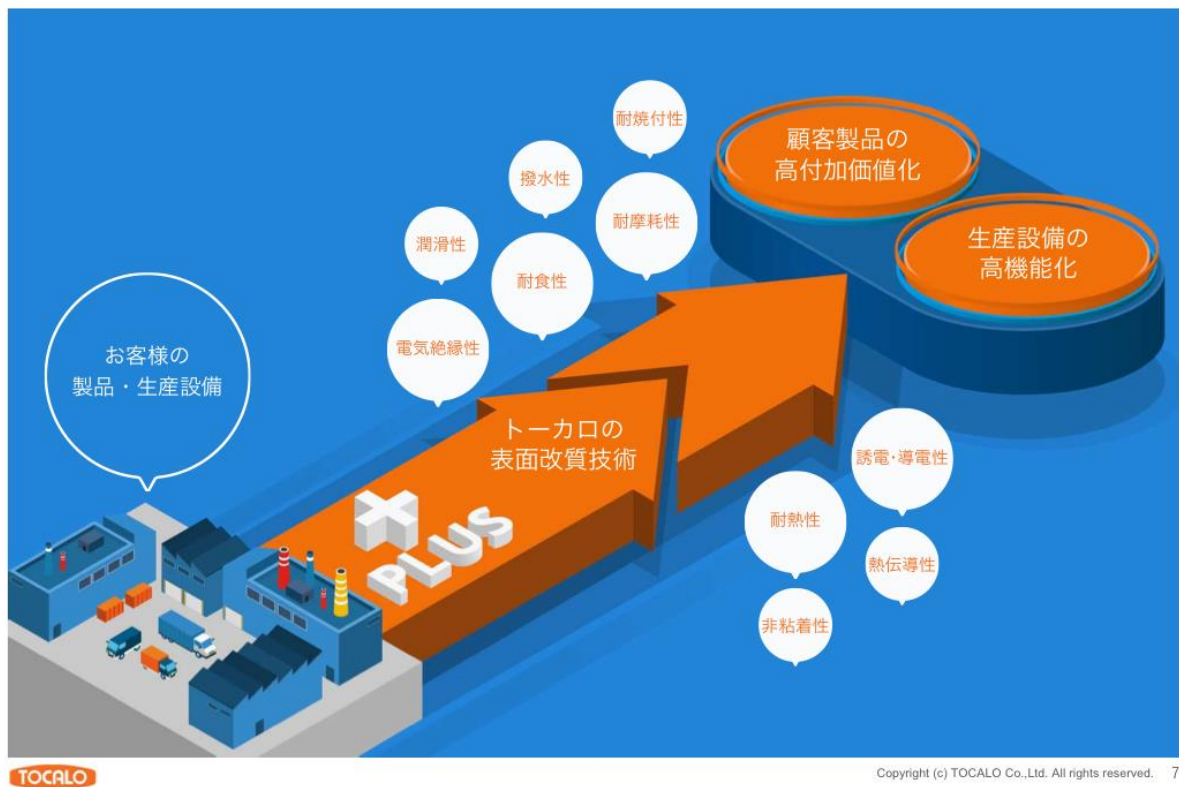


6 ページはグループ会社です。世界に散らばるグループ会社になります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

トーカロの表面改質技術



7 ページは、トーカロの表面改質技術はこういうイメージですよというところです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

トーカロの保有技術

溶射技術 溶融した微粒子を吹き付けることによって加工対象物の表面に高機能皮膜を形成する技術。

●減圧プラズマ溶射 (VPS)



減圧に雰囲気調整したチャンパー内で行うプラズマ溶射法。

●高速フレイム溶射 (HVOF)



高速で材料を噴射する溶射法。緻密で高密着力の皮膜を形成。

●溶線式フレイム溶射



金属、合金のワイヤ材料をガスフレイムで溶融噴射する溶射法。比較的厚膜の溶射施工が可能。

●大気プラズマ溶射 (APS)



10,000°Cを超える高温のプラズマジェットを利用した溶射法。

●粉末式フレイム溶射



フュージング処理すると、無気孔に近い緻密な皮膜が形成できる溶射法。

●サスペンションプラズマ溶射 (SPS)



微粉末を懸濁液 (サスペンション) にして供給するプラズマ溶射法。

●アーク溶射



アーク放電を発生させ、その熱でワイヤ材料を溶融して加工対象物に吹き付ける溶射法。

●溶棒式フレイム溶射



棒状に加工したセラミックロッドを、溶射材料とする溶射法。

●SDC溶射 (厚膜溶射)



高荷重環境下でも使用できる硬質かつ厚膜溶射皮膜を形成できる特殊な溶射法。

その他の表面改質技術 化学反応を利用した皮膜形成技術など、溶射以外の表面改質技術。

●W IN KOTE®



複雑な3次元形状の精密品や、大型品・長尺品へのCVD (※1) コーティングが可能な成膜法。

●CDD-ZACコーティング



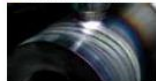
複合セラミックス皮膜を形成する化学緻密化法。

●TD プロセス



耐摩耗性・耐焼き付き性に優れた超硬質皮膜の形成を可能にする表面改質法。

●PTA プロセス



プラズマを利用した粉体肉盛法。冶金結合により、優れた密着性・耐衝撃性を発揮。

●PVD プロセス



材質に応じて最適の処理を選択でき、熱による形状変化を最小限に抑えるPVD (※2) 法。

●レーザーラッドプロセス



レーザーを利用した粉体肉盛法。基材への熱影響を最小限に、密着力や耐摩耗特性に優れた皮膜を形成。



(※1)CVD: 化学蒸着 (Chemical Vapor Deposition) (※2)PVD: 物理蒸着 (Physical Vapor Deposition)

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 8

8 ページはトーカロの保有技術です。

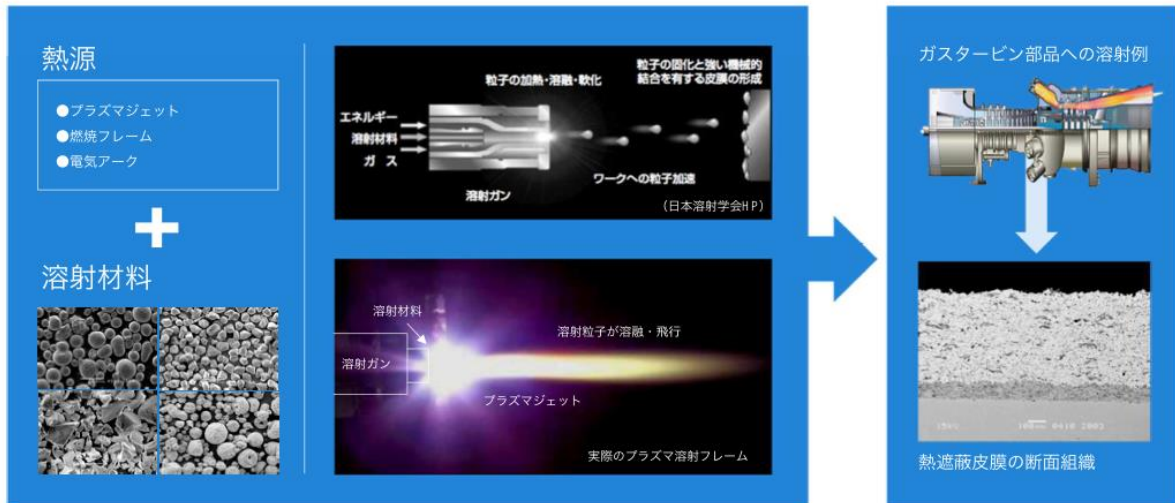
サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



溶射とは

溶射とは、溶射材料を溶かして吹き付け、皮膜を形成するコーティング方法です



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved. 9

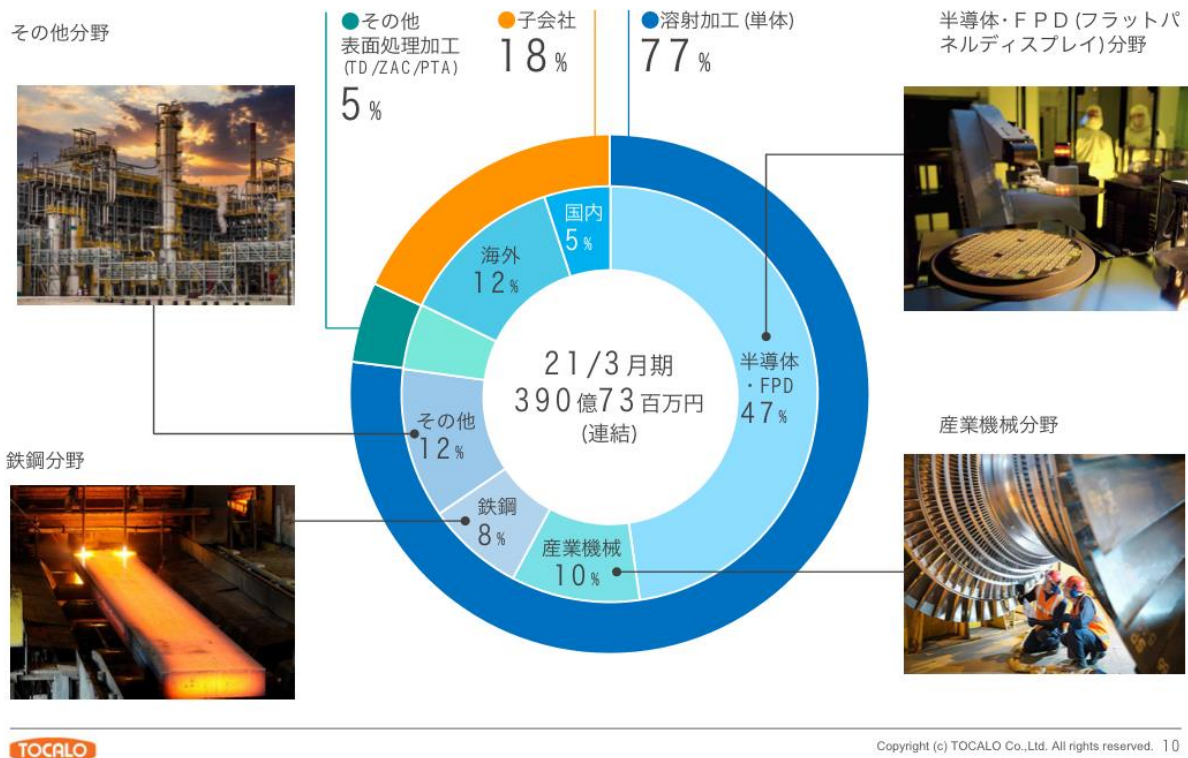
溶射とはという、我々の根本とするところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



さまざまな産業界に広がる事業領域

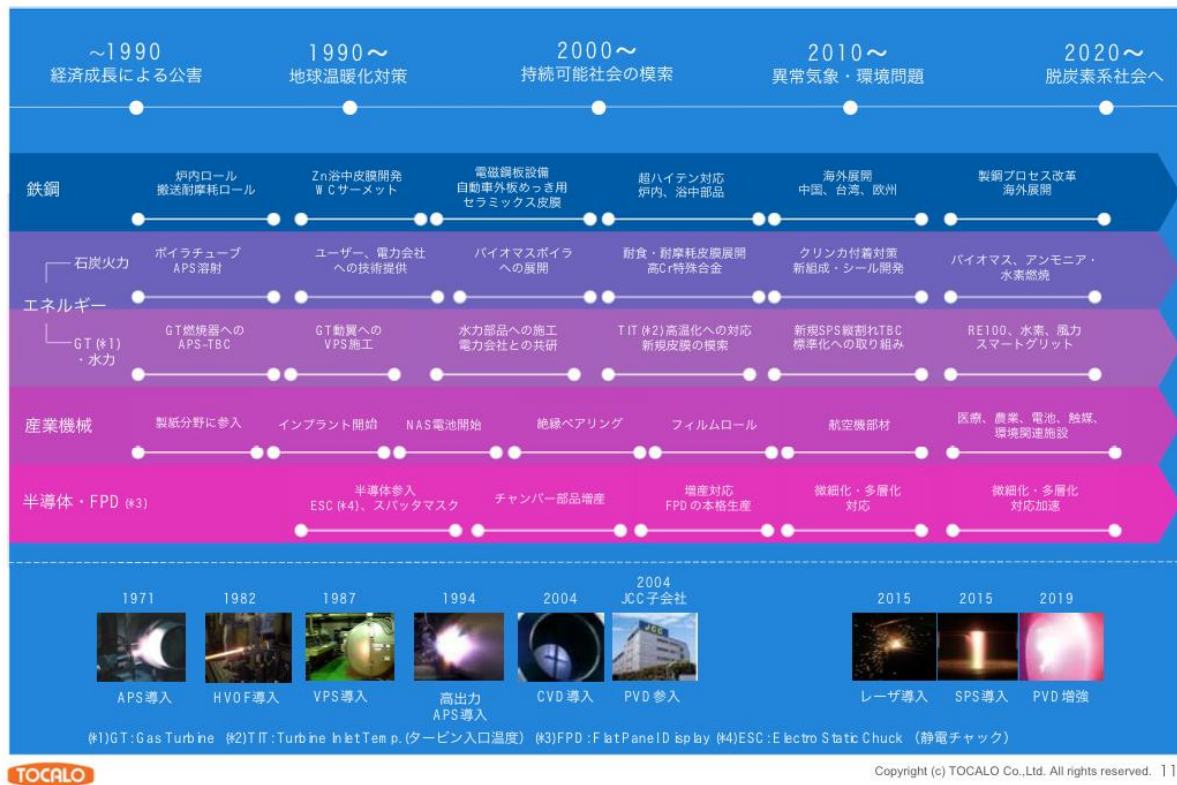


さまざまな産業界に広がる事業領域といいますか、私どものお客様のところの適用範囲を並べています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

アプリケーション開発の変遷

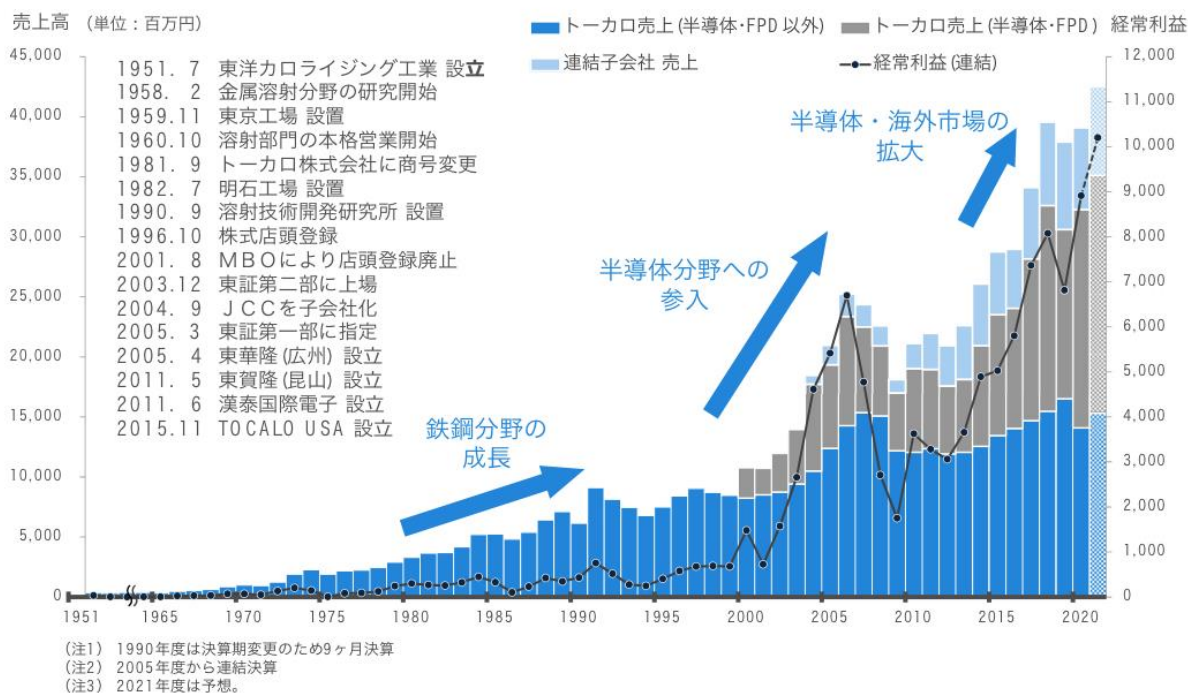


アプリケーションの開発の変遷として、1990 年頃から最近にわたるまでの開発の変遷です。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

沿革・業績の推移（1951年度～）



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 12

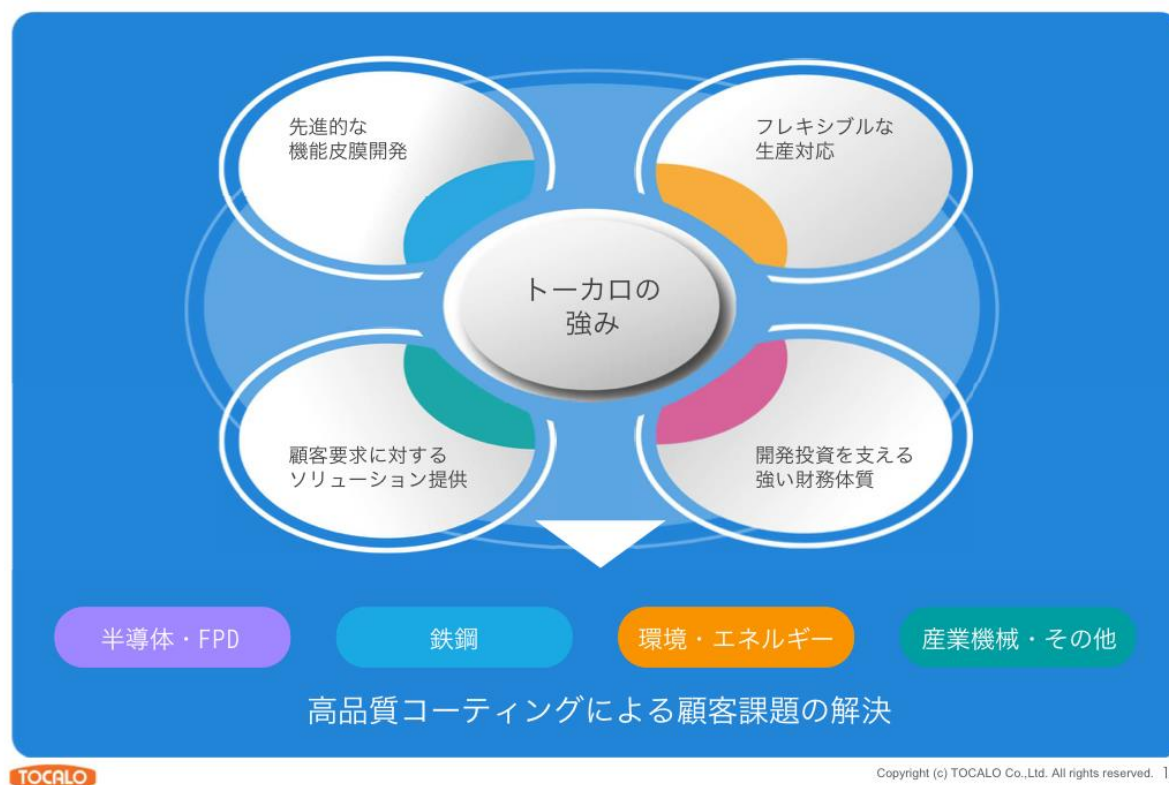
これは創業以来、1951 年からの、沿革、業績の推移について書いています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



当社のビジネスの視点

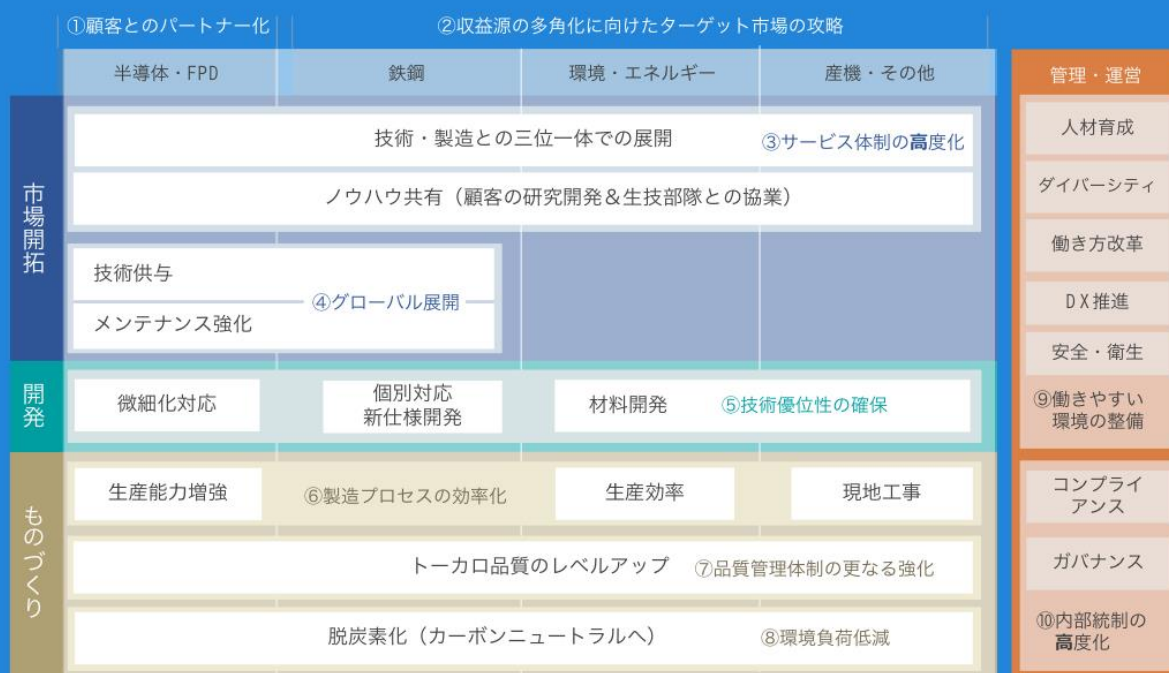


13 ページは当社のビジネスの視点について述べております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

課題認識 (10の課題)



TOCALO

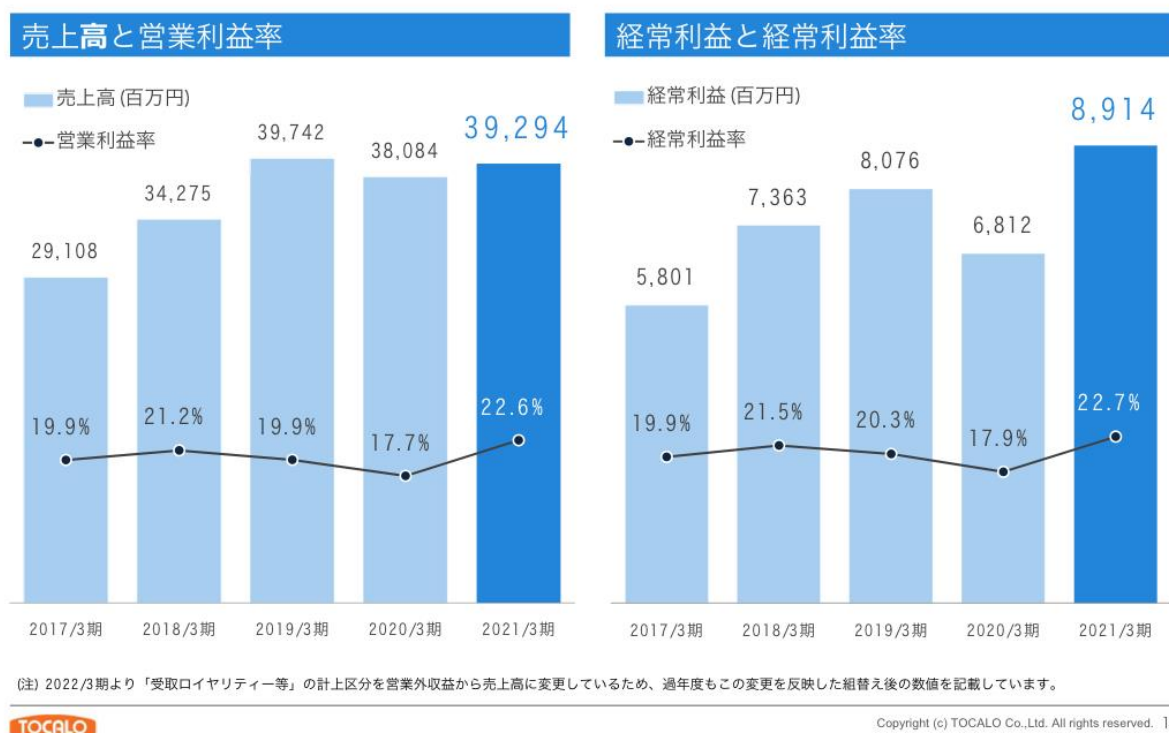
Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 14

14 ページは現在の課題認識を 10 ほどピックアップいたしまして、それについて対応していこうというところがございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

経営指標の推移（連結決算）



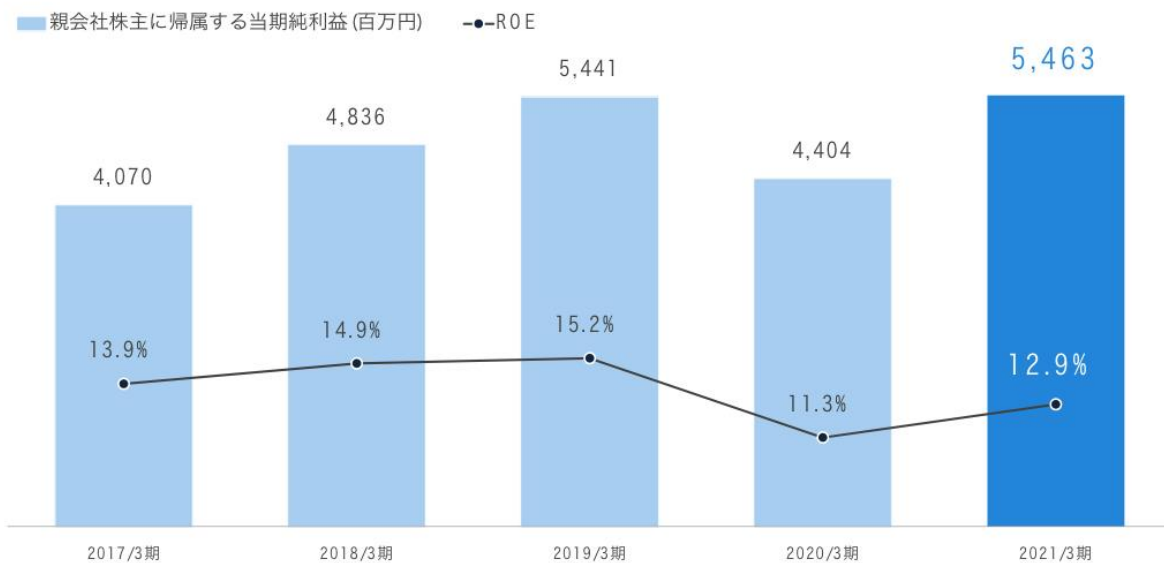
15 ページは経営指標の推移として、売上高、経常利益。先ほど説明したところでございます。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

経営指標の推移（連結決算）

親会社株主に帰属する当期純利益とROE



Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved. 16

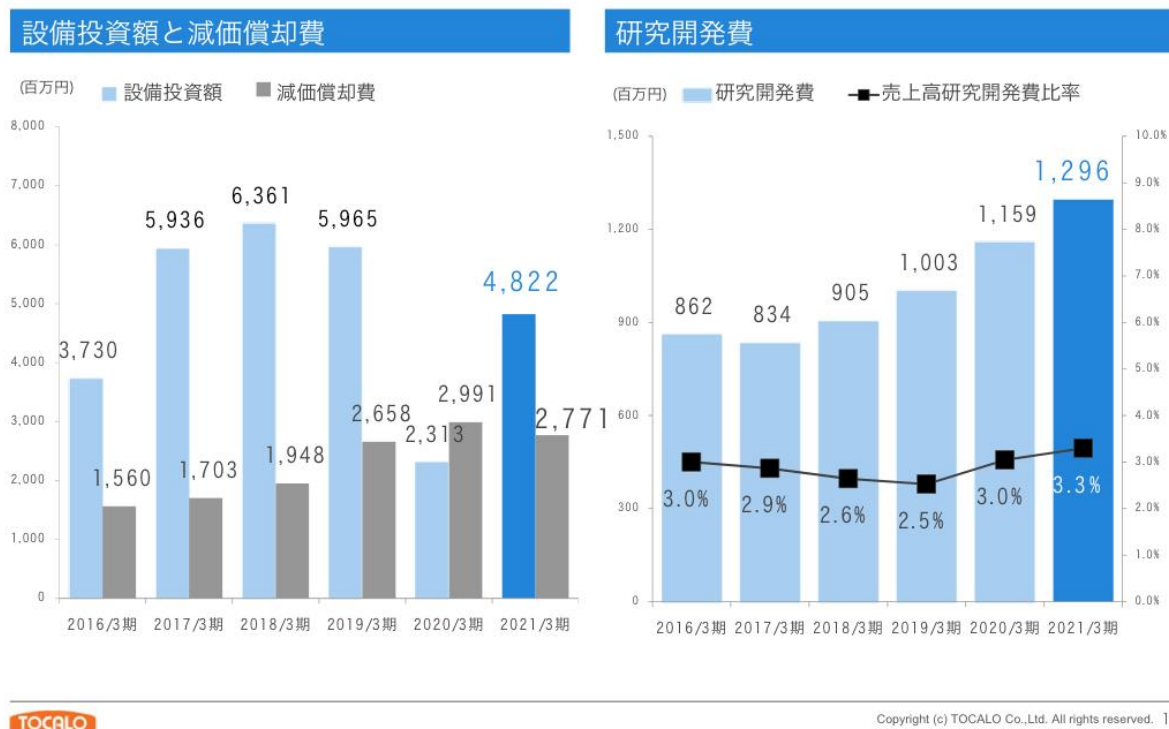
16 ページは当期純利益と ROE の推移ということです。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移



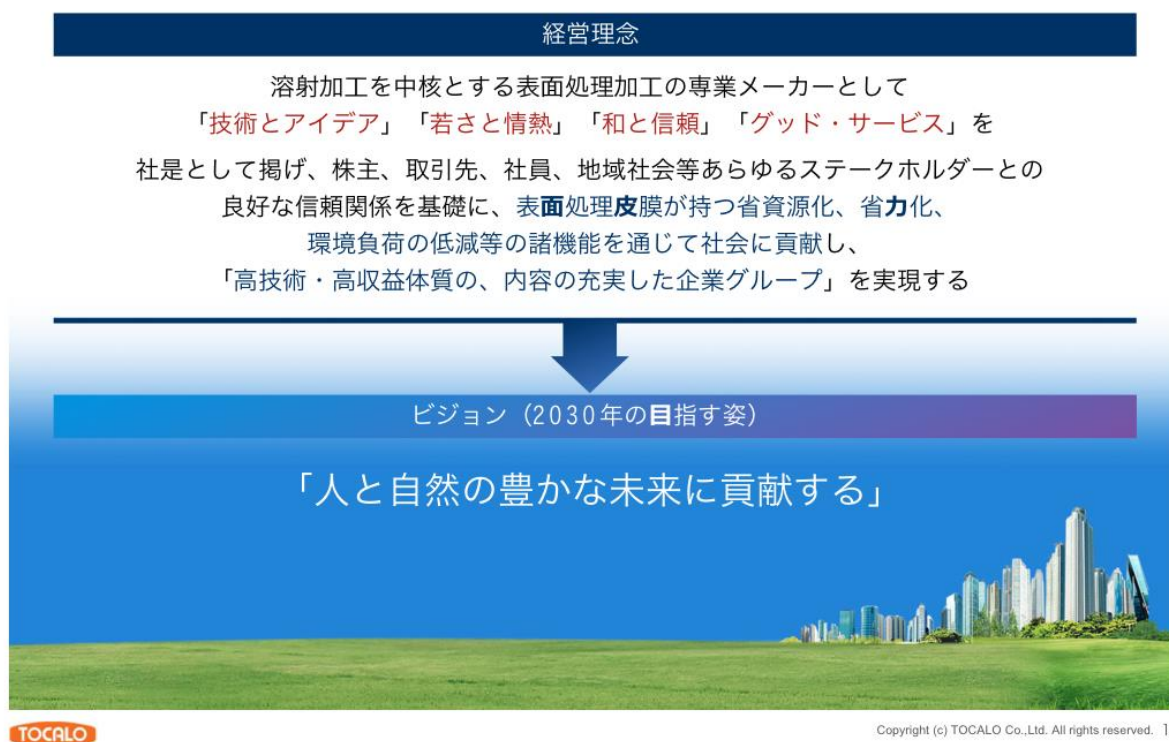
17 ページは設備投資額、減価償却費、研究開発費の推移となります。

いろいろざっと述べましたが、ご不明な点がございましたら、また後日、担当までお問い合わせいただければ、詳細に回答させていただきますので、よろしくお願いします。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

経営理念・ビジョン



このページからが中期経営計画の概要という形になります。

まず、この 19 ページ、経営理念とビジョン、これはどこの会社さんもうたわれているところでございまして。

私どもの経営理念は、ちょっと長いのですが、「溶射加工を中核とする表面処理加工の専門メーカーとして、技術とアイデア、若さと情熱、和と信頼、グッド・サービスを社是として掲げ、株主、取引先、社員、地域社会等あらゆるステークホルダーとの良好な信頼関係を基礎に、表面処理皮膜が持つ省資源化、省力化、環境負荷の低減等の諸機能を通じて社会に貢献し、高技術・高収益体質の、内容の充実した企業グループを実現する」ということをうたっております。

これは前々からうたってある経営理念でございまして、現在の環境問題に対してちょうどいい文言になろうかと思います。これを受けまして、本中計期間 5 年間さらには 2030 年の目指す姿、ビジョンとして、「人と自然の豊かな未来に貢献する」企業でありたいと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

ミッション



20 ページはミッションです。

当社グループのミッションは、「ESG を重視した継続的成長による企業価値の向上」といたしております。そのために、「高品質・高付加価値商品（皮膜）を生み出し顧客に提供すること」。それから、「地球環境保全に資する技術に貢献すること」、「トーカロでイキイキと安全に働くことが従業員やその家族の誇りに思えること」「いつまでも顧客・株主・取引先・地域の皆様から信頼されること」。この4つに取り組んでまいりたいと考えています。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

メガトレンドから見たトーカロの方向性

世界は2050年カーボンニュートラル(脱炭素社会)の実現に向け、大きく動き出している。
当社は、テクノロジー、環境両面で世界に貢献していく。



21 ページはメガトレンドから見たトーカロの方向性です。

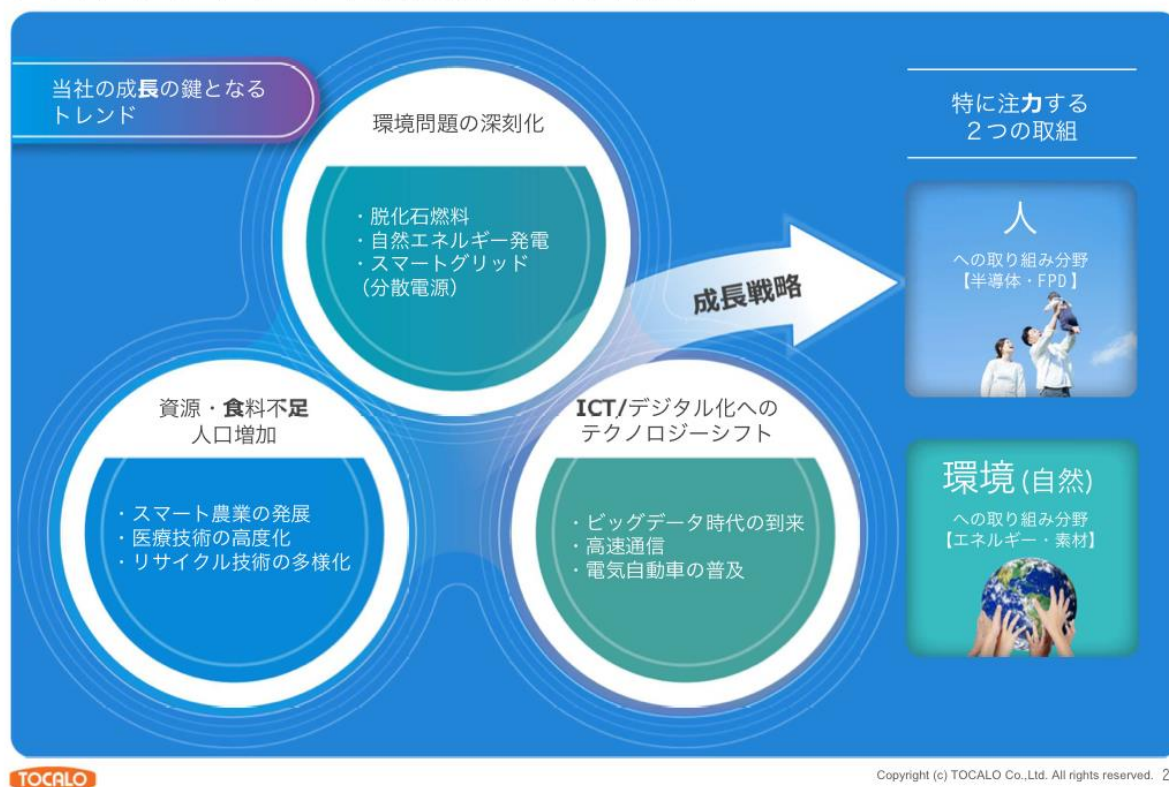
世界は、2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて大きく動き出しております。当社は、テクノロジー、環境の両面で世界に貢献したいと考えておりまして、そのメガトレンド、この社会の大きな変化ですけれども、この中で特に当社の成長の鍵となるトレンドは以下の三つと考えております。

一つは「環境問題の深刻化」、それから2番目は「ICT(Information & Communication Technology)/デジタル化へのテクノロジーシフト」です。3番目に「資源・食料不足・人口増加」と、この三つを考えておりまして、これらに応えるために、トーカロの成長戦略、新商品開発と新市場開拓を強力に推進してまいりたいと思っております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

メガトレンドからの成長戦略の方向性



この 22 ページにつきましては成長戦略の方向性を示しております。

当社の成長の鍵となる三つトレンドを説明しましたが、それらアイテムにおける、そのテーマにおける成長戦略の方向性については、「環境問題の深刻化」では、脱化石燃料、自然エネルギー発電など。

「ICT(Information & Communication Technology)/デジタル化へのテクノロジーシフト」につきましては、ビッグデータ時代の到来、高速通信など。

それから、「資源・食料不足・人口増加」では、スマート農業の発展、医療技術の高度化、リサイクル技術の多様化などがテーマとなってくるものと思われます。

これらから当社グループが特に注力する二つの取り組みとして、「人と環境（自然）」にフォーカスしていきます。

「人」では半導体・FPD を中心とする産業、「環境（自然）」ではエネルギー・素材の分野のアプリケーション開発を進めてまいりたいと考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

成長戦略（1）



分野	開発の方向性とターゲット
 半導体	●ESC：溶射アプリケーションの開発展開、皮膜の多機能化を加速 ●チャンパー部品：多様化する微細化プロセスに対応する次世代皮膜開発 多層化、高アスペクト化するプロセスに対応する次世代皮膜開発
 FPD	●大型液晶パネル、有機ELパネルの高機能化に対応した皮膜の開発、量産展開
その他 (医療・農業・食品など)	●医療用器具 (非粘着、耐食性、濡れ性の制御 etc.) ●農機具向けアプリケーション開発 ●食品機械 (耐摩耗、非粘着、抗バイオフィルム、耐食性 etc.)


Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved. 23

この 23 ページの成長戦略になりますけれども、1 番として先ほど「人」ということにフォーカスするということを、その取り組みを説明しましたが、半導体・FPD、その他医療・農業・食品などの分野において開発の方向性とターゲットを整理して進んでいきたいと考えています。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

成長戦略（2）

環境 (自然)



分野	開発の方向性とターゲット
 エネルギー	● 自然エネルギー発電（風力・水力発電設備の導入拡大と部材の耐久性向上、太陽熱・地熱利用 etc.） ● 脱化石燃料（水素やアンモニア、バイオマス等の代替燃料対応、CO₂排出抑制技術 etc.） ● 環境ビジネスでの案件創出
 素材	● 分散型電源（2次電池部材（LIB（※1）、NAS（※2）等）の生産拡大、燃料電池部材（SOFC（※3））etc.） ● リサイクル設備（電炉、非鉄精錬、石油化学分野など）への適用拡大 etc.
その他 (輸送など)	● 航空機部材への皮膜開発 ● 自動車業界の電動化、EV化における皮膜開発

（※1）LIB: Lithium Ion Battery（リチウムイオン電池） （※2）NAS: NAS電池
 （※3）SOFC: 固体酸化物形燃料電池


Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved. 24

このページは成長戦略2番目、環境自然への取り組みとして、エネルギー、素材その他、輸送を含めた関係の分野において、開発の方向性とターゲットを整理してみたところでございます。

ただ5年ではなかなか難しいかと思うのですが、あくまでも方向性だというふうに考えていただければと思います。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

ビジネスモデルの進化 (1)

テーマ		主に拡販に関する施策	主に社内管理に関する施策
市場開拓の強化	サービス体制の高度化	● サプライヤーからパートナーに ● 顧客への最適なソリューションの提供 ● 重点分野のプロジェクト設置 (収益源の多角化)	● DX (Digital Transformation) の推進 ● 問題解決型エキスパートの育成
	グローバル展開	● メンテナンスビジネスの再構築 ● 現地化の推進 (現地優良企業との協業) ● 技術供与 (ライセンスビジネスの強化)	● グローバルリスク管理体制の強化 ● グローバル人財の計画的育成
技術開発体制の強化	技術優位性の確保	● 先進的皮膜開発への重点投資 ● 産学官連携の推進	● 知的財産戦略の強化 ● 人財育成プランの高度化 ● 技術データベースの拡充



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 26

ここから、施策と数値目標になります。

この 2 ページ、26 ページ、27 ページにつきましては、ビジネスモデルの進化として、先ほど 10 の課題というのを 14 ページに挙げたのですけれども、それに対する施策を示しています。

26 ページにつきましては、市場開拓の強化、それから技術開発体制の強化ということについて。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ビジネスモデルの進化 (2)

テーマ		主に拡張に関する施策	主に社内管理に関する施策
ものづくりの高度化	製造プロセスの高度化と効率化	●生産能力の増強 ●コスト&デリバリーの最適化 ●新規成膜技術の実用化 ●現地工事のスマート化	●安全第一の徹底 ●人財育成と技術伝承 ●自動化・IoTの推進
	品質管理体制の更なる強化	●プロセス管理の強化 ●製品の性能保証への取り組みと確立	●品質システム運用（ISO など） ●PQP（Product Qualification Plan 製品品質保証計画）構築
	環境負荷低減	●脱炭素化（カーボンニュートラル）に向けた戦略策定 ●グリーン成長戦略の検討・実施	●加工手法改善等による電力使用量削減 ●再生可能エネルギーの活用 ●水質汚染・大気汚染防止への取り組み
100年企業を目指した持続的成長	人財育成と働きやすい環境の整備	●ダイバーシティ推進（女性、障がい者、中途採用等）	●働き方改革の推進 ●DX推進 ●中長期的人財育成プラン策定
	内部統制の高度化	●ESGへの積極的取り組み ●内外投資家とのエンゲージメント推進	●コーポレートガバナンスコードへの対応 ●コンプライアンスの徹底



Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 27

それからこの27ページでは、「ものづくりの高度化」と「100年企業を目指した持続的成長」、以上の四つに分類しまして、それぞれの切り口から今後取り組む施策を整理しております。

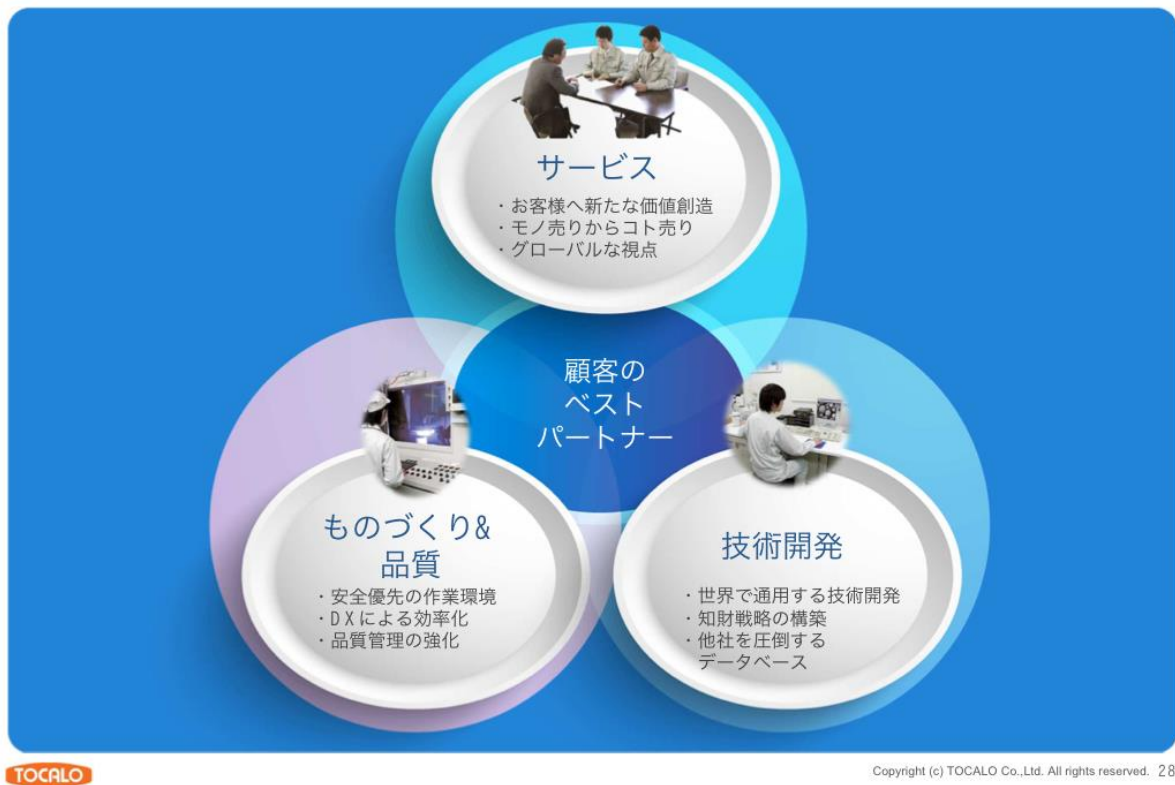
中計期間5年間にわたって、年ごとのアクションプランを明確にしつつ、PDCAを回すという形になろうかと思います。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



顧客のベストパートナーに向けて



この 28 ページは、顧客のベストパートナーに向けてです。

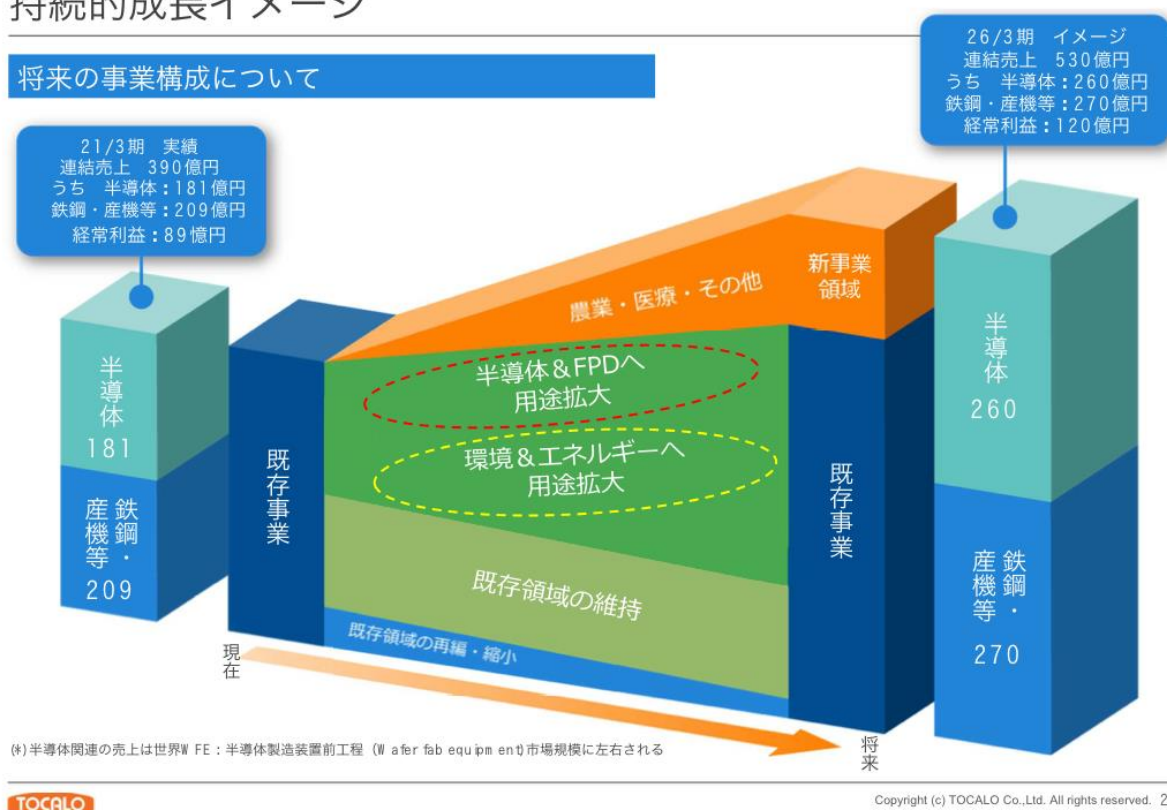
当社グループでは、サービス、ものづくり&品質、技術開発の観点から、お客様のベストパートナー、サプライヤーでなくて、お客様のベストパートナーとなることを目指して活動していきたいと考えております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

持続的成長イメージ

将来の事業構成について



このページは持続的成長イメージです。

本中計期間を通じての成長イメージ、数字も書いております。ただ、この数字が独り歩きをすることをあまり良しとはしないのですが。

2026年3月期には連結売上で530億円、うち半導体関連で260億円、鉄鋼・産業機械等で270億円。経常利益で120億円を目指したいと考えています。

2021年3月期が390億円で、これを発射台として5年間で140億円、35%増の計画です。うち半導体は181億円を発射台として79億円、43%増の計画をしています。経常利益につきましては、89億円を発射台として、34%、31億円増の計画となりますが、社員一丸となって持続的成長の実現に向け努力していきたいと考えております。

ただし、この注釈にも書いていますが、半導体関連の売上は市場動向に非常に左右されやすいと思います。この数値目標については、今後定期的に見直すような形になろうかとは思っています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

財務・株主還元

<強い財務体質の維持>

- 自己資本比率（70% 程度）の維持（実質無借金継続）

<収益力の維持>

- ROE（自己資本利益率）の維持（15% を目標）
- 経常利益率の維持（20% を目標）
- EPS（一株あたり当期純利益）の維持・向上

<配当性向>

- 純利益の1/3以上を目途に安定配当
- DOE（自己資本配当率）の維持（5% を目標）

TOCALO

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 30

30 ページは、財務、それから株主還元のページになります。

強い財務体質の維持として現在 70%程度の自己資本比率、また実質、無借金経営をしておりますけども、今後もこれらを継続していく所存です。

収益力の維持として、ROE、自己資本利益率は 15%、経常利益率 20%を目標として、EPS、一株当たりの当期純利益の維持向上に努めていきたいと考えています。

配当性向は、純利益の 3 分の 1 以上を目安としておりますけども、DOE、自己資本配当率に関しましては、5%を目標に運営していく予定にしております。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

設備投資額、研究開発費

<設備投資>

技術優位性の維持・向上に向けた投資の継続

合計250-350億円（50-70億円／年）

半導体増産関連、新技術プロセス関連、生産効率化関連等

<研究開発費＋技術開発費>

研究開発費　：　連結売上高比3% 程度を維持

技術開発費　：　各工場の生産技術部門で投資継続

TOCALO

Copyright (c) TOCALO Co.,Ltd. All rights reserved. 31

31 ページは設備投資額、研究開発費です。

設備投資は、技術優位性の維持・向上に、今後も積極的に取り組むということで、半導体増産の対応ですとか、新技術プロセス関連、生産効率化の関連などに5年間で、250から350億円の投資を考えています。年間ですと、50から70億円になろうかと思っています。

研究開発につきましては、引き続き、連結売上高比で3%程度を維持しておりまして、それ以外にも各工場の生産技術部門で、技術開発の投資を積極的にやっていこうと考えています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

 **SCRIPTS**
Asia's Meetings, Globally

環境対応

<環境への負荷低減の取組>

- 温室効果ガス排出ゼロに向けて
 - ・化石燃料を使用しない溶射手法の検討
 - ・加工プロセス改善による電力使用量削減
 - ・再生可能エネルギーの活用

※目標：2030年度の温室効果ガスの削減目標を、
2013年度比46パーセント減（政府目標）とする。
（2021-2022年までの2年間は準備期間）

- 水質汚染・大気汚染防止に向けて
当社事業活動のすべてのプロセスにおいて、
状況把握とその改善に取り組む。

TOCALO

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 32

それから、32 ページは環境対応でございます。

当社グループとして、環境への負荷低減の取り組みをしっかりと進めていかなければならないと考えていまして、温室効果ガス排出ゼロに向けては、化石燃料を使用しない溶射手法の検討ですとか、加工プロセス改善による電力使用量の削減、再生可能エネルギーの活用を進めていきたいと。

目標は、わが国の政府目標と同様にしているのですが、2030 年の温室効果ガス削減目標でありますところの 2013 年度比で 46%減といたします。本年 4 月に環境推進部を設置しておりますが、この 2 年間を準備期間として現状を把握し、その削減策を計画する予定です。

今のところまだ手付かずというか、今からという形になろうかと思うのですが、この目標に向けて、2030 年の目標に向けて頑張っていくということの表明だけはして、力をそこに掛けていきたいと思っています。

また水質汚染・大気汚染防止に向けても、状況把握とその改善に取り組んでいきたいと思っています。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



社員の皆さんへ BE TOCALO



最後になりますけども、この最後の2ページにつきましては本計画を社内発表した際に社員向けに発したメッセージでございます。当社グループの目指す方向の一つとして、紹介させていただきたいと思います。

この33ページの「BE KOBE」ということですが、本社があります神戸市がメリケンパークに建てたモニュメントでありまして、「BE KOBE」とは、阪神淡路大震災から20年をきっかけに生まれた「神戸の魅力は人である」という思いを集約した、言わば神戸のシビックプライド・メッセージになります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

社員の皆さんへ BE TOCALO

BE TOCALO

トーカロの魅力は「社員」です。トーカロは、阪神淡路大震災、海外からの買収攻勢、リーマンショック、東日本大震災といった多くの危機を社員全員で乗り越えてきました。

これからの5年、10年は社会のあらゆるものが変化して行きます。この変化にも、社員一丸となって前向きに対処していきましょう。

トーカロ社員であることが誇りに思える、そんな気持ちを込めて、皆さんへ「BE TOCARO」のメッセージを送ります。



TOCALO

Copyright (c) TOCALO Co., Ltd. All rights reserved. 34

新しいことに挑もうとする人や気持ちを愛する、そんな神戸を誇りに思うメッセージとして神戸市民には非常に広められたものになっておりまして、これを受けまして、私どもも「BE TOCARO」にしようと思いました。

トーカロの魅力はやっぱり社員でありまして、わが社も阪神大震災、それから海外からの買収攻勢からリーマンショック、東日本大震災といった多くの危機を社員全員で乗り越えてきました。

これからの5年、10年、社会のあらゆるものが変化していこうと思います。この変化にも社員一丸となって、前向きに一步一步対処していきたいと考えております。

トーカロの社員であることが誇りに思える、そんな気持ちを込めて社員に「BE TOCARO」のメッセージを送ったところであります。このご説明をして、今日の発表の締めくくりとさせていただきます。

ありがとうございました。

司会：ご説明ありがとうございました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

質疑応答

司会：それではご案内の通り、最初は会場にお集まりの皆様から質疑応答に入りたいと思います。

なお、この IR ミーティングですけれども、質疑応答分も含めて全文書き起こしで公開する予定になっております。質問の際、会社名、氏名を名乗られた場合はそのまま公開されますのでご注意くださいいただきますようお願いいたします。

質問者：ご説明どうもありがとうございました。質問、大きく二つさせていただきます。

一つはちょっと少し短い今期、ちょっと少し来期も関わる業績の話、二つ目は、今日ちょっと個人的には唐突感があったですけど、発表されました中期計画に関わる質問でございます。

まず一つ目、今回業績の上方修正されまして、春の決算説明会で社長様もお話されていた通り、やっぱり大きなポイントは半導体のところかなと思うんですけれども、あの時、半導体だいたい3か月ぐらい先までは見えているというような話がありました。

今日、11月ですんで、だいたい今期いっぱいのところはもう見えていると、考えていいのか。それも踏まえてちょっと少し来期のところ、ちょっと来期の話をするのは早すぎるってということかもしれないですけど、その辺りの社長様の感触をお話しいただければと思います。

三船：3か月ぐらい先、確かにそのぐらいしか要は見えないというところがございしますが。

今かなり半導体製造装置メーカーさんもフォーキャストをかなり取られているのですが、それによりますと、だいたい多くは注文が入ったりしているようです。

ただ、私どもとしては、その入ったときにこう波があると困るものですから、できるだけ平準化をしていただけるような形で、両者協力しながらやっているとところございまして。

そういう意味では3か月ほどはやっぱり見えてるなと。もうちょっと見えてるかもしれませんが、そのくらいは間違いはないかなと思ってます。それ1年といわれたら、ちょっと無理です。

質問者：今のお話ですと、今年度は特に問題はないと、そういう理解でよろしいのでしょうか。

三船：よっぽどのことがない限り、何かが起こらない限りは、と思っていますけど。

質問者：分かりました。

サポート

日本 03-4405-3160 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



それでは次二つ目、中期計画に関わる質問です。いただいた資料の 29 ページ、先ほど社長様の方で数字が独り歩きするのはいかがなものかみたいな、お話あったんですけど。個人的には私もそう思うんですけども、ただこれちょっと資料が出ると、どうしてもいろいろ質問したくなってしまうんですけども。

この中でちょっと二つほど質問させていただきます。

まず新事業領域で、農業、医療、その他というところで、これ 5 年後に、だいたい売上でいうと 100 億円を超えるぐらいのところを見込んでいるかなと、この図表から見ると思うんですけども。

どういった内容、その前の方の資料にも、23 ページですか、書いてあるんですけども、もうちょっと具体的に、こういったところで御社の技術がいろいろ生かせるんで、新規事業で 5 年後に 100 億円ぐらいの売上が見込めるんだみたいな、もうちょっと具体的な話があると非常に参考になります。

それが一つ目で、続きまして、せっかく数字が出ているんで、どうしても数字を見てみたくなっちゃうんですけども。一応今年度、経常利益率で 24% ぐらいですか、ご予定されていて、この 26 年 3 月期でいうと経常利益率が 22% なので、利益率で全てを判断するわけではないんですが、この 5 年後も、まだ御社にとって、少し成長の投資の時期なのかなって、ちょっと思っちゃったりするんですが、そういう理解でよろしいのか。

そういうところは、さっき質問させていただいた、この新事業のところ、ここはまだ投資段階と考えていいのか。その辺りのところをご示唆をいただけると大変助かります。

三船：分かりました。厳しいご質問で。

このちょっと 100 億ぐらいって今言われましたけども、すいません、これイメージなもんですか。ここまではなくて、もっと低いんですけど。字が書けないのでこういう形にしていたんですけども。ただ、希望も含めてというところも含めて、医療ですとか農業ですとか、今後やっぱり、その部分っていうのが、人との関わりの中で一番生きてくるだろうなというところで。

医療もかなりやっているんですけども、特に私どもは医療器具の方ですね。そういう形のものをいろいろやっているんですけども、ただどこまで、時間がかかるもんですから、いかんせん。例えば内視鏡であるとか、いろいろあるかと思うんですけども。そういうやつで、血がつかないとか、そういうものの表面処理をコーティング、表面処理で解決するんですけど。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com

そういうところの事業を始めているんですけども。ただ、これだけ伸びるかと言われると、そこまでは、まだコミットできないなというところがございます。

ただやっぱり、本社がある場所はちょうど医療特区になっておりまして、ただあの辺、医療機関が集まっておりましてですね。そういうところで、いろいろタイアップしながらやっているってところは間違いないんですけども。

ただ、事業化がどこまでできるかというところは、今からまだまだ頑張らなアカン世界かなという。もちろん認可も含めてですけども、そういうところはあろうかと。

農業機械とかは、これは機械ですので、例えばコンバインの磨耗する部分って、やっぱり世界中に、例えば、そういうのは使われているものですから。今もやっていますけれども、そういうところが増えてくるだろうな。これは世界を相手にしているので、そういうところが増えてくるだろうなとは考えています。

ただ、確かに、この割り当て、割合からいうと 100 億ぐらいかもしれませんけど。すいません。そんなレベルではないということだけは、ご認識いただきたいと思います。

それからもう一つは利益率。

一応、目標とするところは、20%以上にしていまして、そういう意味では、ちょっとずれるのだろうなあと。やっぱり投資というところも含めて、エネルギーの関係が、今から調整していきますけれども、やっぱり自分のところの自家再生エネルギーをどうするんだとか、化石エネルギー、自分ところで使うエネルギーに対してどうしていこうかというところは。

やっぱり私どもも、CO₂排出量にしたら一万数千トンぐらいは出していますので、それをどう削減していくんだというところ、これをゼロ（ニュートラル）にしていかないと、特に一流のメーカーとは付き合えないという世界になってきますので、その辺の投資も含めて、その部分はきちっと投資していかなきゃいけないだろうと考えております。

20%はクリアしますけど、その辺のところはちょっと上下するだろうなと思っています。以上でございます。

司会：他にご質問いかがでしょうか。

質問者：いつもお世話になってございます。1 問だけ。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



32 ページ目、中計のですね。化石燃料を使用しない溶射手法の検討というのは、非常に個人的には気になるんですけども、どういう感じでやるのかなってのが、理系的に興味があるんですけども。

目標で、2030 年度の温室効果ガスの削減目標を 13 年度比 46%減で、2021、2022 年は準備期間とおっしゃっているんですが。最近はやりのゼロエミッションってありますよね。要するにカーボンニュートラルにするという。

これまた、準備期間とかありますんで、すぐってことではないんですけども、次期中計とか、どこかの機会にカーボンニュートラルっていうのをご宣言なさる将来的なイメージって、おありになるんでしょうかっていう。以上でございます。

三船：カーボンニュートラルの宣言というのは、どこかでやっぱり、企業としてはするべきだと思っています。ただ、その段階がいつになるかというのは、もちろんやっぱり自分のところの内容、どれだけのエネルギーを使って、何を使ってというところも含めて、きちんと把握しないといけないかなというところがあるかと。

それから、化石燃料を使用しない溶射手法。今どちらかという、ジェットエンジンみたいなすごい化石燃料というか、石油系と酸素を混合して溶射をやったりしているんですけど、それはそれで非常にスピードが出るような特徴がございます。一方、電気エネルギーを使ってプラズマ化して、溶かしてつけるという方法もございまして。それで、ある程度速度も出る。

ただし、これは化石燃料でなくて、これは再生エネルギーからも取れるもんですから。そういうところも含めて、できるだけ化石燃料を使わない、溶射の写真お見せしたときに、これ燃料を燃やしているのですね。化石燃料、灯油を燃やしているんですねと言うとわかりますので。

それはできるだけ、やっぱりもう非常に全体の CO2 の排出量からいうと微々たるものですが、やっぱそういうイメージもございますので、少なくしていこうという取り組みは研究所でいろいろやらせています。

司会：他にご質問はございますでしょうか。

大澤：お疲れ様です。いちよし証券の大澤と申します。

中計のところで 2 点あって、一つは半導体の成長ですけれども。多分ベースになるのは記載にあったように WFE の市場の連動性があるってところで、そこを基準とした場合、成長率というのは、市場成長、アウトパフォームというか、上回るところを目指されるのか。市場成長並みかどうでしょうかっていうところと。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

アウトパフォーム、仮に目指されるんだとしても、伸びるときにそれ以上に伸ばすケースと、循環的に落ちるところで落ちを少なくするっていう考えがあって、伸びるところを増やすっていうのはいろいろ攻めに出て、お客さん取ってくるとか、そういうところあると思うんですが。

例えば、逆に落ちを減らすっていうと、例えばリコートを用意的に増やすとか取ってくっていうところとか、あるいは今だとチャンバーとか、静電チャックを中心にされているっていう認識なんですけど、何かしらのその溶射範囲を広げるような提案されるとかあるかと思います。

そこら辺の成長の考え方とか、ある程度技術とかもエリアも含めた具体的な施策っていうのを教えていただけますでしょうか。

三船：分かりました。まず、世界半導体の指標が出ていますので、それでいいますと、2020年と2030年を比べて見たら倍ぐらいあるのですね。そこまではやっぱりうちは、成長しないだろうなというところもございまして。それより、ちょっと落としたぐらいの成長率で考えています。

ただ、先ほど言われたやっぱり波があって、どういう成長戦略をとるんですかという話のところ、リコートに行くのか、どこに行くのか。まずはでも、やっぱり最先端で使われるような部材に対して、適用されるような皮膜を最先端の皮膜を開発しないと、その土俵に乗れないというところございまして。まずはそこを一番やって。

それから降りてきたところで、リコートというのが出てくるかと思うんですけども。そういう形で、まず狙いは最先端で使われるような部材でコーティングを適用するということに、フォーカスしているというところ間違いありません。

今それとの対抗がどうしてもセラミックスというか焼結品であるとか、そういう部材になってくるものですから。もちろんそれに対して、どうコーティングでしのぎを削っていったいけるかというところが勝負になってくる。そこにすごい力を入れているところでございます。

大澤：あと、もう1点が、先ほどちょっと出た化石燃料というところなんですけれども。

今現在、石炭火力のボイラーとか、溶射で手がけていらっしゃると思って、個人的には石炭火力、別に悪いとは思っていないんですけれども。その辺で以前ちょっとそういうフォーカスされたというか、経緯もあったかと思いますが、お客さんとの絡みとか。

あと、いくつか政策挙げられていましたけど、こう一般論以上にトーカロさんならではの、っていう、より掘り下げたところがありましたらお願いいたします。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

三船：いや、多分一般論になろうかと思うんですけど。石炭火力、まだ 2030 年までに、日本のエネルギーの 20%ぐらいを占めるとも言われていますが、やっぱり急には変わらないと思うのです。

ただ、石炭火力でも効率がいいもの。それから CO2 を排出できるだけしないような方向では、水素を混ぜるであるとか、アンモニアを混ぜるとか、そういう混焼もかなり今進んできておりますので、それをしながら、だんだん少なくなっていくのだろうと思ってまして。

その間というのは、ボイラーの関係ですと、やっぱり石炭を使うことになると、どうしてもやっぱり損傷というのは、すごいひどいものですから。だから窒素を混ぜると、水素を混ぜると、違う損傷が出てきまして。

それなりのボイラーチューブを守る、器材を守るという、コーティングに要求される世界が出てきますので、それに対してはかなり私どもの出番だろうなと思ってまして。2030 年頃まではこのボイラー系というのは、あるのだろうなという。

ただ、私どもは、原子力はあまりやってないものですから。そういうところはかなり部材系が多いものですから、そういう意味ではちょっと原子力に移られるとちょっと困るんですけど。

反対に、再生エネルギーの方に来ると、太陽電池はあまりやっていませんけども、風力であるとか、地熱発電であるとか、そういうところに来られると、また私どもとしては、個人的にはうれしい世界があります。そんな感じですかね。

司会：他にご質問、無いようでしたら、オンラインでご参加の方からの質疑応答に移らせていただきます。

司会の方からご質問を代読させていただきます。

まず 1 問目なんですけれども、中計に関して海外事業の成長イメージを示していただけますでしょうか。2026 年度目標での売上利益の比率や、5 年間の設備投資規模など、定量的なものがあれば、併せてお願いしたいということでございます。

三船：かなり議論したんですけども、特に半導体部門はどうだろうかとこのところで変わってくるかなとは思っています。

要は、今、例えば半導体のリコート系統ですと、台湾でやる、中国でやる。現地で、ローカルでやっているという形なんですけども、本当にあと 5 年後に、いや、ローカルでやっぱりそうやれる、やるんだろうか。いや、やっぱり一番いいとこでやるべきよね。例えば、日本にリコート部材返っ

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasia.com



てくる可能性っていうのが非常にあってですね。それで、一番いい品質のものを出した方がお客さんに喜ばれるというところも含めて、今検討しているところで、その先がなかなか読めなくてですね。

アメリカにしても一緒ですけども、アメリカで TSMC が出ますよ。インテルさんが新しい工場を建てるだとか。本当に、その地場でやるんだろかなというところが非常にありましてですね。

それも含めて、今からの検討課題。それによって、海外比率がぐっと変わってくるかと思います。ただ、やっぱり海外比率は増えていくというのも間違いないと考えておりまして。

まだ連結にはしておりませんが、タイであるとか、インドネシアであるとか、そういう子会社、関連会社がありますので。

そういうところをやっぱり今後は子会社化していくよう、連結対象にしていって、その事業化を進め、増やしていこうというところは、当然考えるところでございます。日本企業さんも大手企業さんもそちらも出て行かれていますので、それに合致する形で増えていくだろうなと。

だから、何パーセントにしますよというのはなかなか出ないという。先ほどの医療と農業じゃありませんが、なかなか数字でお示しできないというところが、実情でございます。年々、見直しという形で出るっていうことになれば、また数字的には出したいなと思います。以上でございます。

司会：ありがとうございました。

また会場の方でご質問ありましたら、お受けいたします。

質問者：ご説明ありがとうございました。

1 件、大変しつこくて恐縮なんですけど、持続的成長イメージのところの、もう 1 回ですね、ちょっとネチネチやらせていただきたいんですけども。この 5 年間の間で売上が 35%以上伸びると。それに対して、経常利益率は横ばいだというのは、ちょっとですね。やっぱり、何が前提になっているのかなというのが若干心配になるところがあって。

その増える売上の部分が、すごく利益率が悪いものなのかとか。あるいは。単純に足元が良すぎるだけで、実はしょうがないんだとか。あるいは、御社の事業自体が成長しても、あんまり規模の経済が働かないんじゃないかとか。いろいろ考えちゃうんですけども、どれがイメージとしてあってますでしょうか。

三船：そんなに悪い数字じゃないと思っているんですけど。例えば 390 億円から 530 億に 140 億伸びますよねって話ですよ。利益は、30 億円ですよ。そういう感じなんですけど。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



質問者：つまり、普通、売上が3割以上伸びたら利益率は上がると考えるのが、どうしても私ども、企業分析をやっている人間の第一感なんですよ。それが増えないということは、一体どういうイメージをお持ちになったからなのかなという、そこなんですよ。

三船：それは多分、要はいろいろなところに挑戦するものですから、そういう意味では。全部が全部、成功するはずがありませんので、そういう意味では、私どもの業界から言いますと、そんなに悪い数字はないと思っていますけど。

変な要因があるから、こんな低いんですよと、今言われるような低いという数字にはなっていないと思うんですけど。それはありません。ただ、技術開発が、先ほちょっとご質問ありましたけども、新しい半導体とかに、その最先端の半導体に対して、本当に技術開発が成功するかどうかというところは、これはある程度ある。

質問者：分かりました。ありがとうございます。

司会：それでは、終了予定時間がまいりましたので、これをもちまして説明会を終了させていただきます。

なお、新たにご質問がございましたら IR 担当者宛、メールないし電話でご連絡いただければ回答させていただきますので、よろしくお願いいたします。

三船様、トーカロ株式会社の皆様、ご説明ありがとうございました。

三船：ありがとうございました。

司会：またアナリストの皆様、本日はお忙しい中、ご参加いただきましてありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本	03-4405-3160	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com